

本県における併設型中高一貫教育校
についての中間検証

平成30年10月

山形県教育委員会

目次

I	はじめに.....	1
II	検証にあたって.....	2
III	検証の結果.....	3
1	視点1 進路選択肢の拡大とそれに伴う近隣小中学校への影響.....	3
	(1) 概要.....	3
	(2) 志願倍率の推移.....	3
	(3) 出身小学校の地区別・市町村別の割合.....	4
	(4) 市町村別入学者数の状況.....	5
	(5) 近隣小中学校への影響.....	6
2	視点2 豊かな体験活動による個性の伸長と社会性・豊かな人間性の育成.....	11
	(1) 概要.....	11
	(2) 行事などの状況.....	12
	(3) 生徒の状況.....	12
	(4) 部活動の状況.....	13
3	視点3 6年間の計画的・継続的な教育活動や探究的な学習等による進路実現 に向けた学力の向上.....	14
	(1) 概要.....	14
	(2) キャリア教育の全体計画『マイコンパス』.....	15
	(3) 教育課程と主な取組み.....	16
	(4) 各種調査等の状況.....	18
	(5) 生徒の状況.....	19
	(6) 各種コンテスト等の主な結果.....	20
IV	全国の状況.....	21
1	「中高一貫教育制度に関する主な意見等の整理（概要）」（平成23年7月 中央教育審議会初等中等教育分科会）.....	21
2	「中高一貫教育の現状と制度化の政策過程に関する調査研究」（抜粋）初等中等 教育の学校体系に関する研究報告書3（平成28年3月国立教育政策研究所）...	24
3	主な他県等における中高一貫教育校の評価検証のまとめ.....	26
V	資料編.....	27

I はじめに

中高一貫教育制度は、中央教育審議会第二次答申（平成9年6月）の提言を受けて、「学校教育法等の一部を改正する法律」が平成10年6月に成立し、平成11年4月より、選択的に導入することが可能となった。制度発足当初から学校数は年々増加し、平成30年5月現在では中等教育学校53校、併設型中高一貫教育校490校、連携型中高一貫教育校92校の計635校となっている。文部科学省は、平成11年1月に閣議決定された「生活空間倍增戦略プラン」及び平成13年1月に策定された文部科学省の「21世紀教育新生プラン」において、「当面、高等学校の通学範囲に少なくとも1校整備されること（全国で500程度）」との整備目標を示している。

県教育委員会は、中高一貫教育について、外部有識者等による「山形県の中高一貫教育の在り方に関する検討委員会」の報告書（平成20年1月）を踏まえて、平成21年6月に「山形県中高一貫教育校設置構想」を策定し、その中で、「当面、内陸地区と庄内地区にモデル校を設置し、実践を検証した上で、将来的には、県内4学区への設置を検討する」という方針を示した。これに基づき、「北村山地区の県立高校再編整備計画」の一環として、平成28年4月に東桜学館中学校・高等学校が開校した。

東桜学館中学校・高等学校は、「高い志」「創造的知性」「豊かな人間性」を基本理念とし、6年間の計画的・継続的な教育活動により、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし、大学進学等の進路目標を達成した上で、将来は、魅力あるリーダーとして社会の様々な分野で活躍し、未来の山形県、日本、そして世界を支える人間を育成することをねらいとし、開校から3年目を迎える。

県教育委員会では、「山形県中高一貫教育校設置構想」の方針に沿って、庄内地区の中高一貫教育校の設置について検討するにあたり、参考とするために東桜学館中学校・高等学校のこれまでの取組みや周辺の小中学校への影響、他県の中高一貫教育校に関する評価等を調査し、中間的な検証を行うこととした。

Ⅱ 検証にあたって

1 検証の目的

「山形県中高一貫教育校設置構想」に記載された本県における中高一貫教育校設置の目的に基づき、東桜学館中学校・高等学校の取組み及び近隣市町立小中学校への影響について調査し、全国の中高一貫教育の成果と課題等を踏まえて検証を行うことで、本県の併設型中高一貫教育のより一層の充実を図るものである。

2 検証の位置づけ

今回の検証は、平成 28 年 4 月に東桜学館中学校・高等学校が開校し、3 年目を迎え、全学年がそろった時点での中間的な検証である。なお、内進生が、高校に入学していない状況であることにより中学校のみの検証とし、今後、内進生が高校を卒業した後に再度検証を実施する予定である。

3 検証の内容

以下の 3 つの視点により検証を行う。加えて、全国の中高一貫教育校の状況を調査し、成果と課題についてまとめる。

- (1) **視点 1** 進路選択肢の拡大とそれに伴う近隣小中学校への影響
- (2) **視点 2** 豊かな体験活動による個性の伸長と社会性・豊かな人間性の育成
- (3) **視点 3** 6 年間の計画的・継続的な教育活動や探究的な学習等による進路実現に向けた学力の向上

4 主な検証資料

- (1) 東桜学館中学校に係る資料及びデータ
- (2) 近隣市町教育委員会、小学校及び中学校対象のアンケート調査結果
 - ・近隣市町教育委員会（北村山地区 3 市 1 町・天童市・河北町） 計 6 教育委員会
 - ・近隣市町立小学校（北村山地区 3 市 1 町・天童市・河北町） 計 43 校
 - ・近隣市町立中学校（北村山地区 3 市 1 町・天童市・河北町） 計 16 校
- (3) 「中高一貫教育制度に関する主な意見等の整理」平成 23 年 7 月中央教育審議会初等中等教育分科会学校段階間の連携・接続に関する作業部会
- (4) 初等中等教育の学校体系に関する研究報告書 3 「中高一貫教育の現状と制度化の政策過程に関する調査研究」平成 28 年 3 月研究代表者 渡邊恵子（国立教育政策研究所）
- (5) 他県等における中高一貫教育に係る検証資料
- (6) 各都道府県市への中高一貫教育に係るアンケート調査結果

Ⅲ 検証の結果

1 視点1 進路選択肢の拡大とそれに伴う近隣小中学校への影響

(1) 概要

- 東桜学館中学校の志願倍率は低下傾向にあるが、依然として2倍を超えており、一定の数の東桜学館中学校への進学希望者を確保している。

平成28年度から平成30年度までの入学者の出身小学校の数は、県内73校、県外2校にのぼっている。地区別に見ると、東南村山が59校と最多で、次いで北村山25校、西村山22校、最上21校となっており、村山と最上を中心にして、多くの児童に、併設型中高一貫教育校の選択肢を提供できている状況である。
- 平成28年度から平成30年度までの市町村別入学者数の状況によると、20の出身市町村のうち、最も影響の大きい地元東根市においても、小学校卒業生数の8.6%にとどまっている。アンケート調査によると、少子化が主な要因ではあるが、それと相まって東桜学館中学校への入学者が出たことで、中学校で学級減があったとする中学校が数校ある。その結果、教員数が減り、部活動の指導等に影響が出ているとのことだった。
- 小中学校へのアンケート調査によると、東桜学館中学校の開校による影響について、おおよそ7割の学校が「ほとんど変化（影響）がなかった」としており、影響は限定的であるといえる。

影響があったとする学校の記述内容を見ると、小学校においては、東桜学館中学校入学を目指し、主体的に活動するなど良い影響があったというものが多く、中学校においては、リーダー性のある生徒が減少していると捉えている学校がある一方で、これまで活躍の機会が限られていた生徒が活躍する機会が増えたと捉える学校もあった。

教育委員会へのアンケート調査では、生徒数の減少による影響を懸念する一方で、小中学校教育の活性化につながっているとして、さらに生徒の魅力ある学校づくりの推進に取り組んでいきたいとのことであった。

(2) 志願倍率の推移

年度	入学定員	志願者数			志願倍率
		男	女	計	
平成30年度	99名	87	135	222	2.24
平成29年度	99名	104	134	238	2.40
平成28年度	99名	106	159	265	2.68

(参考) 東北6県の公立の併設型中高一貫教育校の志願倍率

県名	学校名	定員	平成28年度	平成29年度	平成30年度
青森	三本木高等学校附属中学校	80	1.76	1.49	1.35
岩手	一関第一高等学校附属中学校	80	2.05	2.03	2.08
秋田	秋田南高等学校中等部	80	4.25	2.58	2.43
	横手清陵学院中学校	70	0.94	0.94	0.66
	大館国際情報学院中学校	70	1.33	0.84	0.81
宮城	仙台二華中学校	105	4.63	4.10	4.43
	古川黎明中学校	105	2.28	2.20	1.94
福島	会津学鳳中学校	90	2.53	1.99	2.06

(3) 出身小学校の地区別・市町村別の割合(平成30年度 中学校の3学年分)

地区	地区別の集計			市町村等	市町村別の集計		
	小学校等数	東桜学館中に 入学者を出した 小学校数	割合 (%)		小学校等数	東桜学館中に 入学者を出した 小学校数	割合 (%)
東南 村山	59	34	57.6	山形市	36	22	61.1
				上山市	5	2	40.0
				天童市	12	9	75.0
				山辺町	4	1	25.0
				中山町	2	0	0.0
西村山	22	11	50.0	寒河江市	10	5	50.0
				河北町	6	4	66.7
				大江町	2	1	50.0
				西川町	1	1	100.0
				朝日町	3	0	0.0
北村山	25	19	76.0	村山市	7	5	71.4
				東根市	9	9	100.0
				尾花沢市	6	3	50.0
				大石田町	3	2	66.7
最上	21	7	33.3	新庄市	6	4	66.7
				最上町	5	1	20.0
				舟形町	1	1	100.0
				真室川町	3	0	0.0
				金山町	3	0	0.0
				鮭川村	1	1	100.0
				大蔵村	1	0	0.0
				戸沢村	1	0	0.0
置賜	53	1	1.9	高畠町	6	1	16.7
庄内	61	1	1.6	酒田市	22	1	4.5
国立・県立※	21	0	0.0	国立・県立	21	0	0.0
県外		2		大阪府		1	
				埼玉県		1	
合計		75				75	

※ 山形大学附属小学校・山形大学附属特別支援学校・県立特別支援学校(分校も1つの学校とみなす。)

(4) 市町村別入学者数の状況（平成28年度から平成30年度まで）

地区	市町村	平成30年度 (現中学1年)			平成29年度 (現中学2年)			平成28年度 (現中学3年)			合計	平均進学率 (%)
		小6児 童数 (人)	入学者 数 (人)	進学率 (%)	小6児 童数 (人)	入学者 数 (人)	進学率 (%)	小6児 童数 (人)	入学者 数 (人)	進学率 (%)		
東南 村山	山形市	2,080	17	0.8	2,240	13	0.6	2,200	18	0.8	48	0.7
	上山市	227	1	0.4	219			284	2	0.7	3	0.4
	天童市	518	25	4.8	569	20	3.5	537	17	3.2	62	3.8
	山辺町	140			121	1	0.8	131	1	0.8	2	0.5
西村山	寒河江市	365	4	1.1	366	2	0.5	416	4	1.0	10	0.9
	河北町	172	3	1.7	179	2	1.1	159	3	1.9	8	1.6
	大江町	51	1	2.0	71			61			1	0.5
	西川町	51			38	1	2.6	44			1	0.8
北村山	村山市	198	4	2.0	212	8	3.8	202	8	4.0	20	3.3
	東根市	412	34	8.3	471	40	8.5	453	39	8.6	113	8.5
	尾花沢市	127	3	2.4	163	3	1.8	137	3	2.2	9	2.1
	大石田町	62	1	1.6	59	2	3.4	70	2	2.9	5	2.6
最上	新庄市	303	4	1.3	348	3	0.9	349	1	0.3	8	0.8
	最上町	76	1	1.3	82			77			1	0.4
	舟形町	47			47			45	1	2.2	1	0.7
	鮭川村	23	1	4.3	31			48			1	1.0
置賜	高島町	204			226	1	0.4	222			1	0.2
庄内	酒田市	814			888	1	0.1	943			1	0.0
県外	大阪府					1					1	
	埼玉県					1					1	

(5) 近隣小中学校への影響（北村山地区3市1町・天童市・河北町）

【小学校】へのアンケート調査結果（回答 43校）

質問1 学校行事・学年行事等への影響について

変化（影響）あり		ほとんど変化（影響）なし
プラスの影響 0校 0.0%	マイナスの影響 1校 2.3%	42校 97.7%

《主な影響の内容（▲：マイナス）及び各校での取組み等（・）》

- ▲ 塾などの東桜学館の模試に参加するため、学年行事へ不参加という場合があった。
- ・ 地元の中学校の学校説明会の日程や内容を変更した。

質問2 生活指導や生徒指導への影響について

変化（影響）あり		ほとんど変化（影響）なし
プラスの影響 1校 2.3%	マイナスの影響 0校 0.0%	42校 97.7%

《主な影響の内容（○：プラス）及び各校での取組み等（・）》

- 受検を希望する児童が6年進級時に、進んで児童会の役員を引き受けようとしたり、ボランティア活動に参加しようとしたりする積極性が見られた。
- ・ 卒業式の時期が近づいたところで、卒業式での制服が違うことを学年内で事前に話をしている。

質問3 学習指導への影響について

変化（影響）あり		ほとんど変化（影響）なし
プラスの影響 10校 23.3%	マイナスの影響 0校 0.0%	33校 76.7%

《主な影響の内容（○：プラス）及び各校での取組み等（・）》

- 自分の言葉で記述したり話したりする活動において、受検希望の児童は模範的な表現力を発揮し、学級全体へよい刺激となった。
- 小学校卒業後の進路について考える子どもが増えた。特に、高学年では、小学校卒業後の進路に向け、家庭学習等に意欲をもって取り組むようになった子どもがいる。
- ・ 東桜学館中学校入試問題を6年生の授業で取り上げて学習するようにした。
- ・ 東桜学館中の開校を意識してということだけではないが、児童の主体的な取り組みを促す授業づくりを心がけ、思考・判断・表現力の育成に努めている。
- ・ 探究型の学習活動を重視した授業づくりを展開し、活用型の問題にも対応できるよう授業研究を行っている。

質問4 受検に係る指導について

行っている	行っていない
9校 20.9%	34校 79.1%

《主な内容（・）》

- ・ 受検することの意義や合格発表後の生活の仕方等についての指導を行った。学校長自作のプリントを使い、学校長から受検者に対して直接話をする時間を設けた。
- ・ 受検する前には、落ち着いて力を発揮できるようにと、個別に励ましの声をかけた。受検後には、自分なりに振り返らせ、ねぎらいの声をかけた。
- ・ 選考に外れた児童への心のケア。
- ・ 入試間近になり、家族の期待や塾通いの多忙からくる疲れなどによるプレッシャーからイライラしている様子が見受けられたため、担任が話を聞いたり、励ましたりした。

質問5 その他

- ・ 学区内に県立中高一貫校が開校したことで、保護者・地域住民の教育への関心が高まっていると感じます。地元小学校として、本校の教育活動改善の機会とし、子どもたちが楽しく過ごし、力を伸ばす学校づくりを進めていきたいと考えています。
- ・ これからの時代を生きる子ども達には、全国学力・学習状況調査や山形県学力等調査の内容からもわかるとおり「自分の考えを文章で記述・論述する力」が求められています。東桜学館中学校の受検も、教科ごとの問題ではなく、総合的な力をみる「作文」と「面接」を重視していることは、教育の趨勢に合ったものだと思う。

【中学校】へのアンケート調査結果 (回答 16校)

質問1 学校行事・学年行事等への影響について

変化（影響）あり		ほとんど変化（影響）なし
プラスの影響 3校 11.7%	マイナスの影響 3校 11.7%	11校 64.7%

※1校で両方の影響があると回答したため、集計の合計が17校となっている。

《主な影響の内容（○：プラス、▲：マイナス）及び各校での取組み等（・）》

- ▲ リーダーとなる生徒層が薄くなり、指導者の支援が必要な場面が増えたと感じる。
- 小学校の時にリーダー性を十分に発揮できなかった生徒が、それぞれの得意分野で積極的にリーダーとして活躍する姿が見られる。
 - ・ 東桜学館開校前は、小学校6年生を対象として「新入生学校説明会」を1年生が主体となって開催していた。本校の良さを学区のすべての小学生に知ってもらいたいという思いで、中学3年生の企画「いいねプロジェクト」の取組みを始めた。3年生の主体的な取組みとなり、来校した児童や教職員にも好評である。
 - ・ 教員数減により、生徒会専門委員会を指導できる教員がいなくなり、委員会活動を見直し統合することで委員会数を減らした。

質問2 生活指導や生徒指導への影響について

変化（影響）あり		ほとんど変化（影響）なし
プラスの影響 0校 0.0%	マイナスの影響 2校 12.5%	14校 87.5%

《主な影響の内容（▲：マイナス）及び各校での取組み等（・）》

- ▲ トラブルの広域化に対する連携や情報共有の在り方を確認する必要がある。
- ▲ 主体的に行動できる生徒の減少。

質問3 学習指導への影響について

変化（影響）あり		ほとんど変化（影響）なし
プラスの影響 0校 0.0%	マイナスの影響 2校 12.5%	14校 87.5%

《主な影響の内容（▲：マイナス）及び各校での取組み等（・）》

- ▲ 上位層や指導をリードする生徒の減少。
 - ・ 東桜学館中学校の授業研究会等に参加することにより、優れた実践を自校の学習指導にも生かそうとしている。
 - ・ 昨年度、2学年数学において、特定の単元で習熟度別クラスを実施するなど、学習内容の定着を図る取組みを実施した。

質問4 部活動への影響について

変化（影響）あり		ほとんど変化（影響）なし
プラスの影響 0校 0.0%	マイナスの影響 4校 25.0%	12校 75.0%

《主な影響の内容（▲：マイナス）及び各校での取組み等（・）》

- ▲ 生徒数減・学級数減に伴う教員数の減により、部活動設置数を見直し、8つのうち3つの部活動において今年度より募集を停止した。
- ▲ 部員数が単独では確保できず、他校と合同チームで出場した。

質問5 上記以外の取組みの主な内容

- ・ 地域との交流を重視し、地域の子供を地域で育てる活動を活性化している。
- ・ 自校の魅力を再発見する機会と捉え、さくらんぼマラソン大会への協力をはじめとするボランティア活動の深化、職場体験をはじめとする地域連携活動の充実、三軍運動会や合唱中心の文化発表会など生徒実行委員会を中心とした主体的活動の推進など、自校の良さを自覚できるようにした。

質問6 その他

- ・ 気軽に教員交流ができ、東桜学館中学校の良さを学び、自校の教育活動にいかす機会が増えていくことで教員の成長にもつながるのではないかと。
- ・ 東桜学館中学校の入試において、合格しなかった生徒が少なからずいる。その生徒達の心の内をはかり知ることが容易ではないが、負の自尊感情を抱いたことは想像に難くない。また、入学生徒数により教員数が変わり、学校経営の面で考慮すべき事項が生じてくるのは否めない。
- ・ 小学校でPTA会長等の役員を務めていた人の子どもが東桜学館に進学することになり、中学校のPTA会長等の候補者として考えていた人がいなくなり、困ることがある。

質問1 教育委員会が新たに実施した事業や取組み、また変更して実施した取組み等

- ・ 様々な教育環境を整え児童生徒、保護者及び地域の方々にとっても魅力ある学校づくりを推進していく必要がある。
- ・ 算数・数学チャレンジカップ、サイエンスアカデミー、イングリッシュキャンプの実施。
- ・ 学力向上支援員の配置及びALTの増員。

質問2 その他の状況等

- ・ 市内小中学校教育の活性化につながっている。
- ・ 入学を目指す児童の学習意欲は高まった。一方、不合格になった生徒は、入学時からモチベーションが低く、1年生の担任団には、これまでにない学級経営や教育相談の気遣いが増えた。
- ・ 学級数減少による教職員の減少。
- ・ 一部の部活動を募集停止にしたケースがある。
- ・ 優秀な教員が東桜学館に異動してしまう。

(1) 概要

<東桜学館中学校の取組みと成果>

- 平成 30 年度においては、中高合同の行事等が 5、中学校独自の行事等が 14 予定されており、異年齢集団による活動等、多様な体験活動により、社会性や豊かな人間性の育成が図られている。

特に、中高合同の行事等では、高校生のリードのもと、中学生は様々な刺激を受けることができている。

また、中学校生徒会の行事等においては、リーダーの育成及び社会性の育成に力を入れており、各学年の行事等においては、発達段階に応じた校外での体験活動を取り入れ、個性の伸長及び豊かな人間性の育成が図られている。

- 学校評価アンケートの結果では、生徒の 9 割以上が各活動のねらいにそって、主体的に取り組んでいると感じている。また、hyper-QU[※]の結果からは、入学当初から高い社会性を持っている生徒が多いが、行事等を通してさらに高まる傾向にある。

※ 子どもたちの学校生活における意欲、満足度、対人関係スキルなどをもとに、よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査

- 部活動については、運動部 9、文化部 4 が設置され、すべて中高合同もしくは一部合同で活動しており、中学 3 年時に部活動を引退することなく、6 年間継続して活動することができ、個性や能力の伸長を図っている。運動部では県大会、全国大会にも出場しており、文化部においても、各種コンクール等で優秀な成績を収めているものもある。

<課題>

- 通学区域を県下一円としており、生徒の通学区域は年々広がっており、列車など公共交通機関を利用している生徒の割合が高く、所管する警察署が複数にまたがる状況にある。また、安全上及び、家族と連絡を取る上で、携帯電話やスマートフォンを保持している生徒の割合が高い。このことから、公共の場におけるルールやマナーの徹底、不審者情報等安全上の情報収集とその連絡の在り方をより徹底していく必要がある。また、携帯電話やスマートフォンとの付き合い方や情報モラルの指導が欠かせない。
- 通学方法や通学時間が多様化しているため、通学に要する時間や家庭で過ごす時間の使い方が重要になっている。また、遠距離通学になるほど体力が必要となり、十分な睡眠時間を確保しながらも、家庭学習の時間の確保、食事や入浴など、自己管理の在り方について具体的に説明し、指導を強化している状況にある。

(2) 行事などの状況（平成 30 年度）

中高合同の行事等	中学校独自の行事等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学式（中学 1 年、高校 1 年） ・ 高校卒業式（高校全学年、中学 3 年） ・ 東桜祭 ・ かるた大会 ・ 未来創造プロジェクト発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校卒業式（中学全学年） ・ 体育祭（中学全学年） ・ 生徒会歓迎会 ・ 部活動紹介 ・ 生徒会総会（年 2 回） ・ 東桜祭における合唱コンクール ・ 各種ボランティア ・ 東桜キャンプ <ul style="list-style-type: none"> 中学 1 年：庄内浜での自然体験、 中学 2 年：イングリッシュキャンプ 中学 3 年：月山での自然体験 ・ 新入生セミナー（中学 1 年） ・ 職場体験（中学 2 年） ・ 海外研修旅行（中学 3 年） ・ キャンパスツアー

(3) 生徒の状況

① 学校評価アンケートの結果（平成 29 年度）

質問項目	肯定的な評価
・ 私は、学校行事や学年行事等に積極的に参加し、自分の力を発揮している。	92.9%
・ 私は、仲間を大切にし、いろいろな活動を協力して行っている。	98.4%
・ 私は、自治会活動や学級の係活動などに責任をもって取り組んでいる。	91.8%
・ 私は、進んであいさつや返事をしている。	90.1%
・ 私は、学校に相談できる人がいる。	90.1%
・ 私は、部活動を精一杯取り組んでいる。	92.3%

② 学校生活意欲の分析（平成 29 年度 hyper-QU の結果より）

- ・ 5 月と 12 月に調査を実施し、「友人との関係」、「学習意欲」、「教師との関係」、「学級との関係」、「進路意識」のすべての項目において全国平均を上回った。
- ・ 5 月の調査結果に比べて 12 月の調査結果の方が、各項目とも上回る傾向にある。

(4) 部活動の状況

①部活動の設置状況（平成30年度）

運動部	文化部
<ul style="list-style-type: none"> ・軟式野球（男女） ・陸上競技（男女） ・バスケットボール（男女） ・バレーボール（女子） ・サッカー（男女） ・硬式テニス（男女） ・卓球男女（男女） ・剣道（男女） ・弓道（男女） 	<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽（男女） ・自然科学（男女） ・美術（男女） ・書道（男女）

②部活動等の主な成績

【平成29年度】

大会等名称	受賞名等
北村山地区中学校水泳競技大会	<ul style="list-style-type: none"> ・200M自由形 優勝 ・100M背泳ぎ 第2位 ・100M平泳ぎ 第2位 （以上、県大会出場）
北村山地区中学校総合体育大会	・卓球女子個人 第5位（県大会出場）
山形県民ふれあいジュニア書道展	・山形市長賞 他
山形県ジュニア弓道大会	<ul style="list-style-type: none"> ・男子団体 優勝（全国大会出場） ・女子団体 準優勝 ・男子個人 優勝（全国大会出場）
北村山地区中学校新人総合体育大会	<ul style="list-style-type: none"> ・女子バレーボール 優勝 ・卓球女子個人 優勝 （以上、県北ブロック大会出場） <ul style="list-style-type: none"> ・陸上女子走高跳 第2位 （県中学校陸上選手権出場）
県北ブロック大会	・女子バレーボール 第3位（県決勝大会出場）
アンサンブルコンテスト最北地区予選	・金賞 打楽器五重奏（県大会出場）

【平成30年度】 8月現在

大会等名称	受賞名等
北村山地区中学校水泳競技大会	・100M平泳ぎ 第2位（県大会出場）
北村山地区中学校総合体育大会	<ul style="list-style-type: none"> ・女子バレーボール 優勝 ・卓球女子個人 第2位 ・陸上1年女子1500M 第2位 ・体操男子個人総合 第4位 （以上、県大会出場）
樺墨書院展	・山形県議会賞 他
山形県ジュニア弓道大会	<ul style="list-style-type: none"> ・男子団体 優勝（全国大会出場） ・男子個人 優勝（全国大会出場）
全日本吹奏楽コンクール最北地区予選会	・優秀賞（県大会出場）

3 **視点3** 6年間の計画的・継続的な教育活動や探究的な学習等による進路実現に向けた学力の向上

(1) 概要

<東桜学館中学校の取組み>

- ・ キャリア教育(「マイコンパス」)や総合的な学習の時間(「未来創造プロジェクト」)の全体計画が整備され、6年間の計画的・継続的な指導がなされている。
- ・ 中高一貫教育の特色を生かし、数学における高校の学習内容の一部先取り学習、サイエンスセミナー、イングリッシュキャンプ、海外研修旅行など、理数教育と外国語教育に重点を置いた教育がなされている。
- ・ 探究的な学習として、総合的な学習の時間「未来創造プロジェクト」において、東北芸術工科大学と連携し、1年間を通して教科の枠を越えた学習を行っている。

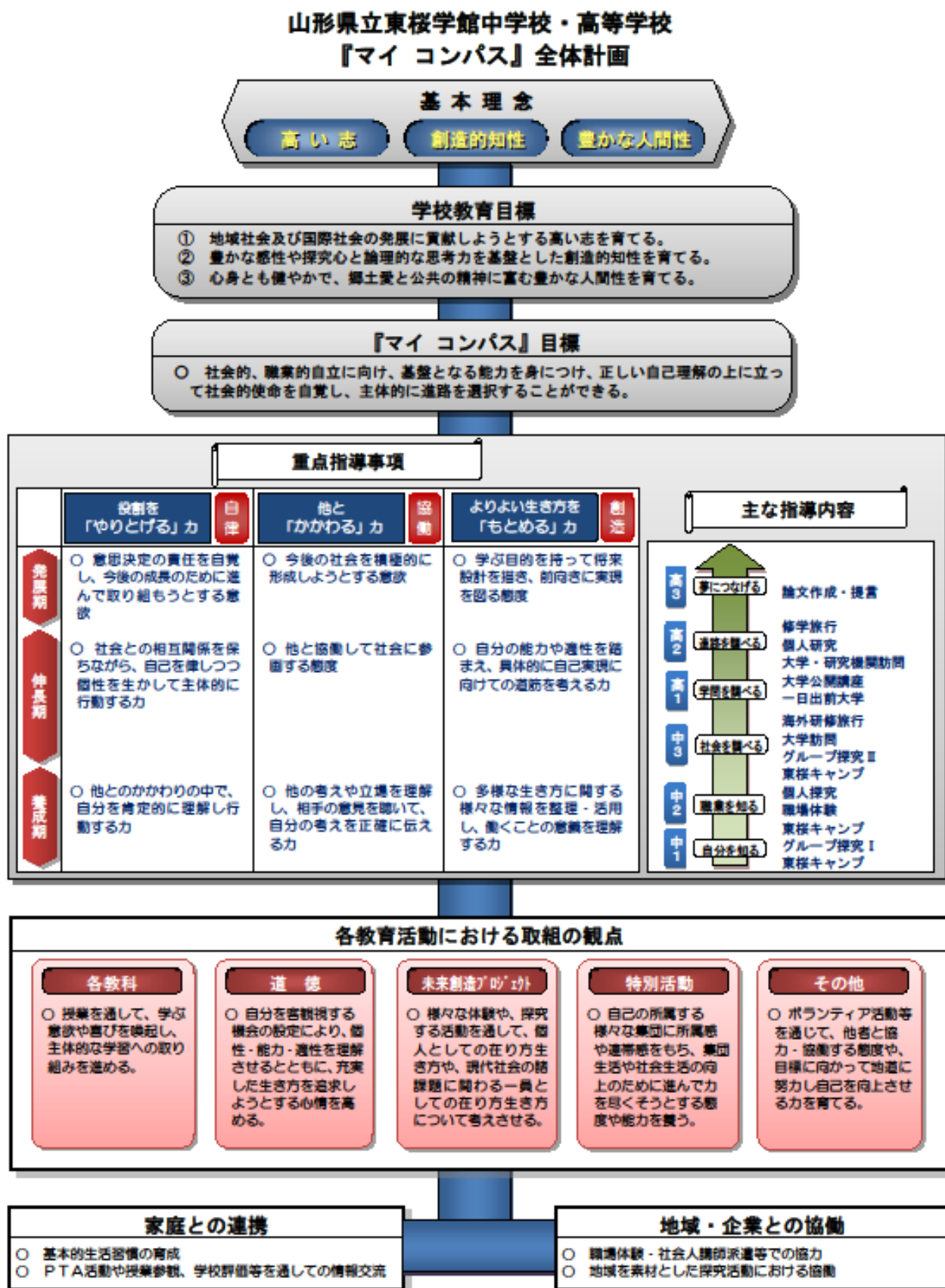
<成果>

- ・ 「地域の素材を活かした中高6年間の取組みを通して、未来の山形を担い国際的に飛躍するグローバルな視点を持った科学技術人材を育成する体系的・継続的なプログラムの研究開発」を目的とし、学校として、平成29年4月から5年間、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(以下、「SSH」という。)に指定された。
- ・ 学習に係る学校評価アンケートでは、意欲的に学習していると感じている生徒が多く、また、県学力等調査によると、家庭学習を平日1日当たり2時間以上の生徒の割合が、県平均を大きく上回っている。
- ・ 全国学力状況調査では全ての科目において、県学力等調査では全ての観点において、県平均を大きく上回っている。また、実用英語技能検定や学習に係る各種コンクール・コンテストにおいて、優秀な成績を収めている生徒がいる。

<課題>

- ・ 6年間を通じた教科指導により、確かな学力を身につけさせることが重要である。毎週、中高合同教科会を行い、6年間のシラバスを作成している。今後、シラバスを完成させるとともに、中高の互見授業をより充実させ、生徒理解に立った教科指導を行っていくことが大切である。
- ・ 平成31年度の高校1年次生から、内進生と外進生を合わせた年次の構成になる。数学の先取りによる学習進度差、年次としての一体感など、想定される課題の洗い出しとその対応策について、校内に特別委員会を設置し検討を重ねている。
- ・ 特色ある教育活動として第一に掲げていることが、マイコンパスの充実である。マイコンパスの全体計画に基づき、自律、協働、創造の育成を目指し、各学年及び年次における教育実践を推進するとともに、評価・改善しながら、そのシステム化を図っていくことが重要である。

(2) キャリア教育の全体計画『マイコンパス』



(3) 教育課程の特色等及び主な取組み

①教育課程上の区分

中学校			高等学校（全日制・普通科）		
1年	2年	3年	1年	2年	3年
養成期			伸長期		発展期

②教育課程の特色

○55分間、週30時間の授業

○理数教育の充実

- ・ 中学数学は、3年間で授業時間 96 時間増
- ・ 高校数学 I の内容を 2 単位（70 時間）分先取り
- ・ SSH指定を受け、中学3年時に大学教授によるサイエンスセミナーを実施

○外国語教育の充実

- ・ 中学英語は、3年間で授業時間 138 時間増
- ・ イングリッシュキャンプ（中学2年）
- ・ 「香港マカオ」への海外研修旅行（中学3年）

③キャリア教育（マイコンパス）の主な取組み

○夢☆コンパス（講演会）の実施（平成29年度の主な実施状況）

- ・ 「睡眠講座」福島大学共生システム理工学類研究科 高原 円 准教授
- ・ 「いのちの学習講話」さとこ女性クリニック 井上 聡子 医師
酒田市健康課 後藤 敬子 助産師
- ・ 「夢☆コンパス講話」ふくしま学びのネットワーク 前川 直哉 事務局長
- ・ 「立志式記念講演」岩手大学 鈴木晃彦 教授
- ・ 「キャンパスツアー講話」慶應義塾大学先端生命科学研究所 富田 勝 所長

○キャンパスツアーの実施（これまで訪問した主な大学）

- ・ 東京大学 ・ 東北大学 ・ 慶應義塾大学先端生命科学研究所
- ・ 東北芸術工科大学 ・ 東北文教大学

○Weekly Compass（自己管理能力育成のための生活記録ノート）の活用

- ・ 3点固定の意識の醸成：起床時間、家庭学習の開始時間、就寝時間の固定

○QUEST EDUCATION への取組み

○職場体験（中学2年）

④探究的な学習（未来創造プロジェクト：総合的な学習の時間の総称）の取組み

東北芸術工科大学と連携し、デザイン思考の考え方を取り入れた探究型学習を行っている。

○時 数 3学年ともに 約 55 時間

○形 態 1年グループ ⇒ 2年個人 ⇒ 3年グループ

○年間計画（例：平成 30 年度 1 学年未来創造プロジェクト年間指導計画の概要）

主な流れ	主な内容 ☆：東北芸術工科大学と連携した内容
ガイダンス・スキル学習	☆デザイン思考ガイダンス ○2 学年との交流 ☆デザイン思考演習『アイデアの広げ方とまとめ方～名物イベントのデザイン～』 ☆デザイン思考演習『チームワークによる課題解決を学ぶ～友人のペンケースをデザインする～』
現状理解・課題発見	☆問題への共感・深いニーズを調査 ・『身近な”よりよい”を探そう ～それにより誰がどう HAPPY になったか～』 ・『身近な人を観察・インタビュー』 ○グループ分け ○テーマ設定
スキル学習・情報収集	○情報収集の方法 ○問題の現状に関わる情報収集
思考・発想	○意見交流アドバイス ○実験・試作・情報収集 ○ジュニアフィールドワーク（校外学習）
共有・フィードバック・判断	○情報整理・アンケート集計 ○分析・試作・製作・実験 ○問題解決方法とその特質・有用性・実現性・革新性
アイデアのまとめ	○スキル学習（表現・資料作成技能） ○発表資料作成
表現	☆発表会（中高同日）
振り返り	○振り返り・自己評価アンケート ○次年度に向けて

⑤その他の学習に係る取組み（平成 29 年度）

○長期休暇中の講習（夏期、冬期、春期）：生徒の状況に応じた学習内容

○週 1 回 30 分間程度のまなびタイム（MT）：先生方への質問、学び方指導等

(4) 各種調査等の状況

①全国学力・学習状況調査（中学3年4月実施）の結果（平成30年度）

国語A・国語B・数学A・数学B・理科すべてにおいて、全国及び県の平均到達率より大きく上回る結果であった。また、国語における「書くこと」「読むこと」「話すこと・聞くこと」等、数学における「数と式」「図形」「関数」等、どの領域においても全国及び県の平均到達率より大きく上回っている。小問ごとの状況においても同様である。

②県学力等調査（中学2年4月実施）の結果（平成29、30年度）

平成29、30年度学力調査Ⅰと学力調査Ⅱともに県平均を大きく上回る結果であった。調査問題を観点別で分析した「広げながら考える力」「深めながら考える力」「組み立てながら考える力」の点から見ても、県平均と比べ、すべての力が大きく上回っている。出題形式別の分析においても、同様である。

③実用英語技能検定級取得状況（平成29年度末時点 中学1・2年分）

級	取得人数	備考
準1級	1名	大学中級程度
2級	5名	高校卒業程度
準2級	22名	高校中級程度
3級	79名	中学卒業程度
4級	65名	中学中級程度
5級	14名	中学初級程度

(5) 生徒の状況

①全国学力・学習状況調査及び県学力等調査の質問紙の結果

○全国学力・学習状況調査（中学3年4月実施）の質問紙の結果（平成30年度）

〔全国や県平均より、肯定的な回答が大きく上回る主な項目〕

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- ・家で、自分の計画を立てて勉強している。
- ・学校での授業時間以外に、月曜日から金曜日、勉強・読書をする時間が多い。
- ・これまでの授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会が多い。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考える。
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことが多い。

○県学力等調査の質問紙（中学2年4月実施）の結果（平成29、30年度）

〔県平均より、肯定的な回答が大きく上回る主な項目〕

- ・授業で学んだり取り組んだりしたことが、ほかの授業や普段の生活にいかされていると感じることがよくある。
- ・解決することや達成が難しくても、失敗を恐れなくて粘り強く挑戦しようと思う。
- ・生徒の間で話し合うことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
- ・授業中、ノートや学習プリントには、黒板の内容を写すだけでなく、自分の言葉でわかりやすくまとめる工夫をしている。
- ・学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 →2時間以上の割合が多い。

②学校評価アンケート（平成29年度）

質問項目	肯定的な評価
・私は、各教科の授業がわかりやすい。	94.5%
・Weekly Compass を活用し、3点固定・朝食・時間管理を意識しながら生活している。	80.2%
・私は、授業を通して、働くことや職業について考えることがある。	80.2%
・互いに学びあったり、協力して問題を解決したりする場面がある。	95.1%
・私は、家学と家読で、毎日2時間以上行っている。	80.2%
・私は、家学ノートやミステイクノートなどを活用し、復習に取り組んでいる。	80.2%
・授業や講習などで、自分の学習到達度をもとに基礎を固めたり、難しい問題へ挑戦したりしている。	78.0%
・私は、進んで本や新聞を読んでいる。	80.2%
・私は、未来創造プロジェクトへ真剣に取り組んでいる。（東北芸術工科大学の先生の授業も含む。）	92.3%

(6) 各種コンテスト等の主な結果（平成 29 年度から平成 30 年 8 月まで）

- ・山形県読書感想文コンクール 入選
- ・YBC 読書感想文コンクール 特選・佳作・学校賞
- ・U-39 やましん紙歌会 優秀賞・佳作・入選
- ・やまがた親守詩コンクール 優秀賞
- ・科学の甲子園ジュニア県予選 準優勝・第 3 位
- ・中学校デザイン選手権大会 準優勝
- ・QUEST CUP 2018 人物ドキュメンタリー部門全国大会 グランプリ
- ・創造力の甲子園山形県予選会 優勝
- ・全国中学校選抜将棋選手権大会県予選会女子の部 準優勝（全国大会出場）

IV 全国の状況

1 「中高一貫教育制度に関する主な意見等の整理（概要）」

（平成23年7月中央教育審議会初等中等教育分科会）

1 総論

- 中高一貫教育制度は、平成9年6月の中央教育審議会第2次答申に基づき、中学校と高等学校の6年間を接続し、6年間の学校生活の中で計画的・継続的な教育課程を展開することにより、生徒の個性や創造性を伸ばすことを目的として、平成11年度から選択的に導入され、平成22年4月現在、402校を数える。平成9年答申の理念に基づき、具体的な成果が上がっている学校が見られる反面、平成9年答申において示された懸念が現実になっていたり、平成9年答申には示されていない論点が課題として挙がったりしているなどの現状も見られる。

2 特色ある教育の展開について

- 中高一貫教育校における教育では、様々な試行錯誤をしたり、体験を積み重ねること等を通じて、豊かな学習をし、個性や創造性を伸ばすといった考え方が、制度創設後10年を経た現在、一定程度達成されている。今後とも、各学校がその特色を活かした教育活動を展開していくことが望まれ、
 - ・ 目指す学校像や生徒像の明確化、教育活動の特色化や積極的な広報、
 - ・ 海外留学や国際バカロレア認定校としての取組等、中高一貫教育校の特色ある教育活動の積極的な支援、が必要である。

3 教育課程の特例の活用状況とその拡充の必要性について

- 中高一貫教育校では、様々な試行錯誤をしたり、体験を積み重ねるなどゆとりある学校生活を送るとの中高一貫教育のねらいを達成する観点から、学習指導要領において所要の特例が設けられているが、現状として、その活用は一部の特例に限られ、決して十分とは言えない状況にある。
- このような中、中高一貫教育校が今後とも特色ある教育を展開することを促すため、教育課程の特例について、更なる拡充を講じる必要があり、具体的には、
 - ・ 「高等学校段階における学校設定教科・科目について卒業に必要な修得単位数に含めることのできる単位数の上限」について36単位までとすること
 - ・ 中学校段階内においても、各学年及び各教科の標準授業時数を確保しつつ、学年間において指導内容の一部を移行し、かつ、当該内容を本来の学年で指導しなくてもよいこととし、その旨を明確化することが必要であるほか、連携型の特例の拡充についても、今後検討が必要である。

4 学力差やいわゆる「中だるみ」への懸念と学習意欲の向上を図る取組について

- 多くの学校において、生徒間の学力差、あるいは学習意欲の低下（いわゆる「中だるみ」）を課題として捉えるようになってきており、それらをいかに向上させるかが課題となっている。中でも中学校段階と高等学校段階の接続に当たる時期において、色々な行事を取り入れたり、生徒へ課題や試験を課したりする等の取組が引き続き有効であると考えられる。
- 「中だるみ」を単に学習意欲の低下ではなく、まさに中等教育の段階で迎える重要な思春期の心の葛藤や不安定さと捉えるべきとも考えられ、中高一貫教育本来のゆとりのある安定的な学校生活を送る中で、6年間の計画的・継続的な教育を展開するという理念のもとで、生徒間の学力差や学習意欲の低下という課題との整合性をどのように考えていくかが重要な視点である。

5 入学者選抜の在り方と高等学校段階に進む時点での配慮について

- 公立学校（中等教育学校・併設型中学校）において入学者選抜を行う際には、設置者において、学校の目標、人材育成像、教育内容・方法の特色や、これらに基づきどのような適性を有する生徒を求めるのか、その考え方がどのように選抜方法に反映されているのかを明確にし、広く周知することが最も重要である。また、各学校において入学者選抜の方法を決定するに当たっては、「受験エリート校化」や「受験競争の低年齢化」といった懸念を招くおそれがないか、こうした懸念を上回る必要性があるのか、等を見極める必要がある。その際、地域や学校の状況に配慮することが重要である。

現状の「適性検査」については、これらを踏まえ、その内容が妥当なものであるかどうかを、各教育委員会において検証していくことが必要である。制度上、「学力検査」を実施しないこととされていることについては、このような状況を踏まえつつ、これを改めるかどうかを判断することが重要である。

- 連携型においても、学習意欲の低下や学力差については課題意識がある。また、「簡便な入学者選抜」という言葉が、あたかもその高等学校における入学者選抜の難易度や教育内容の程度が低いかなのような印象を与えることがあるとの指摘がなされた。
- 高等学校段階に進む時点では、一部、「他の高等学校等に進学」する例が見られるが、転居等を除き、生徒本人の進路希望を踏まえた上で保護者を交えた面談を行い、他校への進学意思を確認するなど必要な配慮が行われており、この点に関して、特段の課題は認識されていない。

6 心身発達の差異や人間関係の固定化を踏まえた異年齢集団の活動について

- 中高一貫教育を導入した結果、当初ねらいとしていた学校より多くの学校で異年齢交流による生徒の育成に成果があったとしており、学校運営が困難とする学校は少ない。

また、生徒の人間関係の固定化を課題とする学校も決して多くない。

- 心身発達の差異や人間関係の固定化に対する取組として、スクールカウンセラーの活用や、内進生・外進生、学級、年齢の別を超えた活動、行事や部活動等での交流が行われている。特に、中学校段階から高校生と深く交流することができる異年齢集団の活動については、その成果が学校側からも評価されており、生徒側からの評価でも、中高の6年間において深い人間関係が形成されることについての高い評価が見られる。

7 中高間の教職員の配置・交流と教職員の負担への対応について

- 教職員の意識改革・指導力の向上に成果を認める一方で、教職員の負担が増えているとする学校が多く、教職員の負担感が、制度導入時には懸念されていなかった新たな課題として生じてきている。これらに関する取組として、例えば、校務分掌の中高一体化やITの導入による負担の軽減等の取組が認められるほか、6か年を見通したシラバスの作成等の取組が広く行われることが有効であると考えられる。
- また、学校側からは、公立学校においては高等学校・中学校それぞれから背景の異なる人事により赴任することに起因する困難さも指摘されており、例えば職員室を同じにするとといった取組や職員研修などを通じて、双方の教員の相互理解の促進に資することが重要であると考えられる。
- なお、負担感の増加には、中高一貫教育校であることに由来する要因のほかに、「子どもと向き合う時間の確保」の指摘に見られるように、そもそも教職員の超過勤務の常態化等の構造的な背景があることにも留意し、例えば教職員の持っている能力や適性に応じた校務分掌を行うことも重要である。

8 その他の論点

<各地域における中高一貫教育校の整備>

- 中高一貫教育についての生徒や保護者の期待やニーズが非常に高まっており、それに学校の整備が追いついていないとの意見が出された。地方公共団体や学校設置者の主体的な判断により、今後とも中高一貫教育校の量的充実が図られることが求められていると考えられる。

<地域への影響>

- 中高一貫教育校が生徒や保護者のニーズに応える形で際だった才能や意欲を示す子どもを受け入れ、地域のリーダーを育成するといった教育目標を掲げる一方で、公私のバランスや地域の一般の公立中学校への影響を懸念する声もある。一方、これらの学校についても、進路意識が明確になった時点で、最もふさわしい学校を主体的に選択できるなどの利点を有することには留意が必要である。

<連携型中高一貫教育校>

- 連携型はその学校数が近年伸び悩んでいるが、離島など当該地域から離れた高等学校に通学することが難しい地域を中心に、教育委員会や保護者、地域住民が地域ぐるみで連携型中高一貫教育校における教育活動の充実に取り組んでおり、連携型についても、前述した教育課程の特例の拡大などの検討を行うとともに、その取組を支援していくことが必要である。

9 まとめ

- 中高一貫教育制度は、制度創設時に期待された成果が達成される一方で、制度創設後に生じてきた課題なども見られ、必要な制度の改善や各学校における取組が促されることが必要である。また、単に中高一貫教育制度のみの改善にとどまらず、高等教育との接続の観点も含め、今後の高等学校教育の在り方を検討する中での視点も重要である。
- 本作業部会としては、今後とも中高一貫教育校の設置が促進され、今後より一層、生徒の個性や想像力を伸ばすとともに、21世紀の社会で活躍できる人材の育成につながるよう、我が国中等教育の多様化・複線化が深まることを期待する。

2 「中高一貫教育の現状と制度化の政策過程に関する調査研究」（抜粋）

初等中等教育の学校体系に関する研究報告書3

（平成28年3月研究代表者 渡邊恵子（国立教育政策研究所））

第8章 中高一貫教育校における成果と課題の整理

3 全体的に見た成果と課題

（1）中高一貫教育による成果（表4）

この結果を見る限り基本的には生徒の側面から見た成果が多く認識されており、次いで教職員の側面での成果も多く認識されていた。もともと生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すために中高一貫教育が導入された経緯もあり、生徒面での成果が多く、学校で認識されていたことは事前に期待されたとおりと考えられる。

生徒の側面に焦点を当てて詳しく見ると、「異年齢交流」と「ゆとり」（教育活動全体にゆとりが生まれる）という理念的に期待されるような2項目で特に高い割合となった。次いで、「学力向上」や「進路実現」という保護者や生徒から一般的に期待されるような2項目の割合が高かった。さらに、例えばグローバル人材や科学的人材のような「特色的人材」（特色的な能力のある人材の育成）や「人間性育成」（豊かな人間性の育成）といった従来の学力面に限らない生徒の社会人としての将来を見越した幅広い人材育成に関する成果の認識も3割前後の学校で見られた。

そして、教職員の取組や連携等を通じた成長を促すというような成果も比較的多く認識されていた。一般的な公立の中学校や高等学校と異なる中高一貫教育校としての取組から教職員の成長を促すものがあつたと推測される。

なお、組織面や保護者面から見た成果について挙げた学校はほとんど見られなかった。今回調査では主なものを三つまで回答してもらう形式であり、これらの成果は副次的なものとしてあつたとしても、主要なものではなかったと考えられる。

また、実施形態別に比較しても、比較的大きな10ポイント以上の差が見られた「ゆとり」と「教職員成長」の成果項目を除いては、大きな違いは見られなかったことも指摘しておきたい。

（2）中高一貫教育による課題（表5）

実施形態を問わず、「中だるみ」と「学力差」の2項目は課題になりやすいことが見えてきた。一般的な中学3年生段階での高校入試に相当するものが実質的にないため、学習意欲が高まりにくいという課題は容易に考えられる。さらに、中高一貫教育を行う公立学校では入学者の選抜において学力検査（一般的な学力を測る試験）ができない。このため、もともと入学時点から学力的な面での差は生じており、6年間の中で更に拡大してしまうことが、中高一貫教育校への訪問調査の際にもしばしば指摘されていた。また、訪問調査の際に、当初は実施しなかった適性検査

表4 公立中高一貫教育校で認識された成果（該当割合）

側面	成果項目名	全体	中等教育学校	併設型
生徒	ゆとり	61.5%	70.0%	58.1%
	生徒指導	12.5%	10.0%	13.5%
	異年齢交流	68.3%	70.0%	67.6%
	進路実現	41.3%	43.3%	40.5%
	学力向上	49.0%	43.3%	51.4%
	特色的人材	26.9%	33.3%	24.3%
	人間性育成	26.9%	33.3%	24.3%
	部活成果	15.4%	13.3%	16.2%
	内外刺激※	10.8%	—	10.8%
	教職員	教職員成長	28.8%	16.7%
組織 校務効率化		0.0%	0.0%	0.0%
保護者	保護者満足	1.0%	0.0%	1.4%
その他	その他成果	2.9%	3.3%	2.7%
有効回答数		104	30	74

注：項目名の後に※印が付いたものは併設型だけの項目である。
（上記の場合の全体の有効回答数は併設型の74となる）

表5 公立中高一貫教育校で認識された課題（該当割合）

側面	課題項目名	全体	中等教育学校	併設型	
生徒	中だるみ	31.7%	34.5%	30.7%	
	学力差	35.6%	44.8%	32.0%	
	心身発達差	4.8%	10.3%	2.7%	
	男女比	0.0%	0.0%	0.0%	
	人間関係固定	10.6%	20.7%	6.7%	
	部活在り方	9.6%	3.4%	12.0%	
	不適応対応	12.5%	10.3%	13.3%	
	発達の遅れ	6.7%	10.3%	5.3%	
	生徒募集	13.5%	10.3%	14.7%	
	課程編成※	14.7%	—	14.7%	
	内外融和※	8.0%	—	8.0%	
	教職員	教職員負担増	12.5%	10.3%	13.3%
		教員人事	13.5%	13.8%	13.3%
		教員意識差	23.1%	6.9%	29.3%
組織	学校の特色	10.6%	3.4%	13.3%	
	活動の連続性	11.5%	10.3%	12.0%	
	行事等見直し	9.6%	3.4%	12.0%	
施設	施設の制約	11.5%	3.4%	14.7%	
地域	地域関係	6.7%	13.8%	4.0%	
その他	その他課題	12.5%	10.3%	13.3%	
有効回答数		104	29	75	

注：項目名の後に※印が付いたものは併設型だけの項目である。
（上記の場合の全体の有効回答数は併設型の75となる）

を導入することで入学段階での学力差は縮小したものの、それでも在学中に学力差の拡大が見られるという指摘がなされていた。

多くの併設型中高一貫教育校では、併設型中学校に入学してそのまま併設型高等学校に進学する内進生だけではなく、外部の中学校から併設型高等学校に入学する外進生も受け入れている。それに対して、中等教育学校は完全に6年間で一つの学校であるため、原則的に途中からの入学はない。この違いが「人間関係固定」という課題に対する割合の違いに結びついたことが指摘できる。ただし、併設型中高一貫教育校では「課程編成」と「内外融和」との2項目に示される、内進生と外進生の間に生じる教育課程の違いや人間関係形成上の課題も見られており、外進生の受入れは一長一短であると指摘せざるを得ない。

以上は生徒面に関する課題であるが、別の側面での課題に目を転じてみよう。教職員面での課題項目に含まれる「教員意識差」、「教員人事」及び「教職員負担増」の3項目が、1割か2割程度の学校で課題として挙げられていた。訪問調査時にも指摘されていたのだが、中学校と高等学校の教員間には文化の違いがあるために、中高一貫教育校の中でも意識の違いが生じてしまい、協力関係を築くのが容易ではないという実情が現れた結果と考えられる。また、公立学校では教員の学校間異動があるために学校内での人材育成や継承が難しいという教員人事による課題も認識されていた。さらに、一般的な中学校や高等学校とは異なる取組をしており、教職員には負担がかかるという状況も見えてきた。

そして、中高段階間での教員の意識差や協力関係での課題を示す「教員意識差」の割合が二つの実施形態間でかなり違っており、興味深い点として指摘できる。中等教育学校は一つの学校とまとまっているのに対し、併設型中高一貫教育校を構成する中学校と高等学校は別組織として存在しているため、どうしても組織的な違いが生じやすくなっていると理解できる。前項では、成果としての「教職員成長」について併設型中高一貫教育校の方がより多く認識されていたが、組織が違うことで生じてしまう学校間の意識のギャップを乗り越えることで、より教職員の成長につながりやすくなっていると考えられよう。

組織面や施設面、そして地域面での課題でも、二つの施設形態の間で割合にやや差が見られた項目がある。組織面や施設面では併設型中高一貫教育校での割合が比較的高く、地域面に関しては中等教育学校での割合が高くなっていた。

残念ながら、これらの理由を検証できる詳細な情報がないために推測にとどまってしまうが、基本的に多くの中高一貫教育校では母体となった高等学校があるため、施設面での違いについてはその影響と考えられる。また、組織面での違いに関しては教職員の意識差によって生じるコミュニケーション不足によって生じている可能性が考えられる。そして、地域面での違いに関しては、中等教育学校では基本的に外進生の受入れがなく、生徒の進学を介した地元中学校との関係性がないことから、地元との関係性が築きにくいことが関係していると考えるのが自然であろう。

3 主な他県等における中高一貫教育校の評価検証のまとめ

下表は、平成30年2月に、県教育庁高校教育課が各都道府県及び主要都市の教育委員会に調査※を実施し、検証結果等を公表していると回答のあったものの中から、主な都県市の評価検証の内容を、「主に成果があったとする評価」「懸念等があるとする評価」「数値のみ記載」に分けてまとめたものである。

○：主に成果があったとする評価 △：懸念等があるとする評価 □：数値のみ記載

視点	No.	評価・検証の主な内容	東京都	宮城県	佐賀県	茨城県	栃木県	埼玉県	横浜市	千葉市	広島市	仙台市
視点1	1	中高一貫教育校の設置状況										
	2	募集のための学校説明会の状況										
	3	中学校入学者選抜の志願倍率										
	4	他中学校への影響										
	5	入学前準備(受検競争・低年齢化)										
視点2	6	中高交流(学校行事・生徒会・部活動等)										
	7	体験学習の実施										
	8	地域との関わり(地域学習を含む)										
	9	ボランティア活動の状況										
	10	生徒指導(生活規律)・いじめ等										
	11	心のケア・教育相談										
	12	転出・退学等										
視点3	13	中学の進路指導(キャリア教育)										
	14	先取り等、特例の活用状況										
	15	探究的な学習(課題研究型等)の状況										
	16	理数教育の充実										
	17	グローバル教育の充実										
	18	基礎基本の定着(学力差への対応)										
	19	家庭学習(読書含む)の状況										
	20	学校生活・学習への満足度										
	21	中だるみ										
	22	各種大会・検定等の成果・実績										
	23	全国学力・学習状況調査、独自調査等状況										
	24	地域の中等教育への成果の還元										
その他	25	内進生の併設高校への進学状況										
	26	外進生の状況(倍率、学力、満足度等)										
	27	高校の卒業後の進学実績										
	28	教員の兼務・連携・乗り入れ										
	29	中学校入学者選抜の在り方										

上記の都県市による評価検証をもとに、各都県市が左記の項目について、どのように評価しているかを、山形県教育庁高校教育課が分析し、「主に成果があったとする評価」「懸念等があるとする評価」「数値のみ記載」の3つに分類して記号で示した。その内容については、ホームページ掲載資料からは削除している。

※ V資料編の「資料6 各都道府県市への中高一貫教育についてのアンケート調査結果」を参照。

V 資料編

1 参考文献

(1) 山形県中高一貫教育校設置構想

山形県中高一貫教育校設置構想 概要 (資料1)

(2) 県立東根中高一貫校（仮称）教育基本計画

県立東根中高一貫校（仮称）教育基本計画【概要】 (資料2)

(3) 中高一貫教育に係る検証等の参考文献一覧

- ・中央教育審議会 初等中等教育分科会学校段階間の連携・接続に関する作業部会「中高一貫教育制度に関する主な意見等の整理」の概要
- ・国立教育政策研究所 初等中等教育の学校体系に関する研究報告書3「中高一貫教育の現状と制度化の政策課程に関する調査研究」（平成28年3月）
- ・東京都「都立中高一貫教育校検証委員会報告書」（平成30年4月）
- ・宮城県「高校教育改革の成果等に関する検証『中高一貫教育』について」（平成26年3月）
- ・佐賀県「併設型中高一貫教育の検証について（報告）」（平成27年4月）
- ・茨城県「県立高校教育改革の成果検証に係る報告書」（平成26年3月）
- ・栃木県「県立高等学校再編整備計画の成果と課題報告書」（平成27年2月）
- ・埼玉県「中高一貫教育検証会議報告書—埼玉県における中高一貫教育の成果と課題について—」（平成24年2月）
- ・横浜市「横浜市立高等学校及び南高等学校附属中学校第三者評価結果」（平成27年度）
- ・千葉市「千葉市立高等学校改革の評価・検証～最終まとめ～」（平成26年3月）
- ・広島市「ハイスクールビジョン推進プログラム」（平成29年1月）
- ・仙台市「仙台市立高等学校の再編に関する検証—魅力と活力のある市立高等学校をめざして」（平成27年11月）
- ・岩手県「今後の高等学校教育の基本的方向—概要版—」（平成27年4月20日改訂）
- ・秋田県「第七次秋田県高等学校総合整備計画（平成28年度～平成37年度）」（平成28年3月）
- ・岡山県「岡山県立高等学校教育体制整備実施計画」（平成25年2月）
- ・山口県「平成30年度山口県教育委員会の点検・評価報告書」（平成30年7月）
- ・「佐賀県における併設型中高一貫教育校の成果と課題について—中学段階に焦点をあてて—」（2012年2月 政策研究大学院大学）

2 東桜学館中学校からの提供資料

- ・学校パンフレット（平成 31 年度入学者用）
- ・学校要覧（平成 30 年度）
- ・マイコンパス全体計画
- ・未来創造プロジェクト全体計画（資料 3）
- ・未来創造プロジェクト年間指導計画（平成 30 年度）（資料 4）
- ・行事等の実施要項（平成 29 年度から平成 30 年 7 月分まで）
- ・各種大会やコンクール等の入賞記録（平成 29 年度から平成 30 年 7 月分まで）
- ・実用英語技能検定級取得状況（平成 29 年度末時点）
- ・hyper-QU の結果（平成 29 年度分）
- ・学校評価アンケート（平成 29 年度分）
- ・学校・学年・学級通信（平成 29 年度から平成 30 年 7 月分まで）
- ・PTA 会報（平成 29 年度から平成 30 年 7 月分まで）
- ・生徒会誌（平成 29 年度）

3 その他の資料

- ・学校基本調査（平成 27 年度から平成 30 年度速報まで）
- ・入学者選抜出願倍率の推移（平成 28 年度から平成 30 年度まで）
- ・県学力等調査結果（平成 29 年度及び平成 30 年度）
- ・全国学力・学習状況調査結果（平成 30 年度）

4 東桜学館中学校開校の影響等の調査結果のまとめ（資料 5）

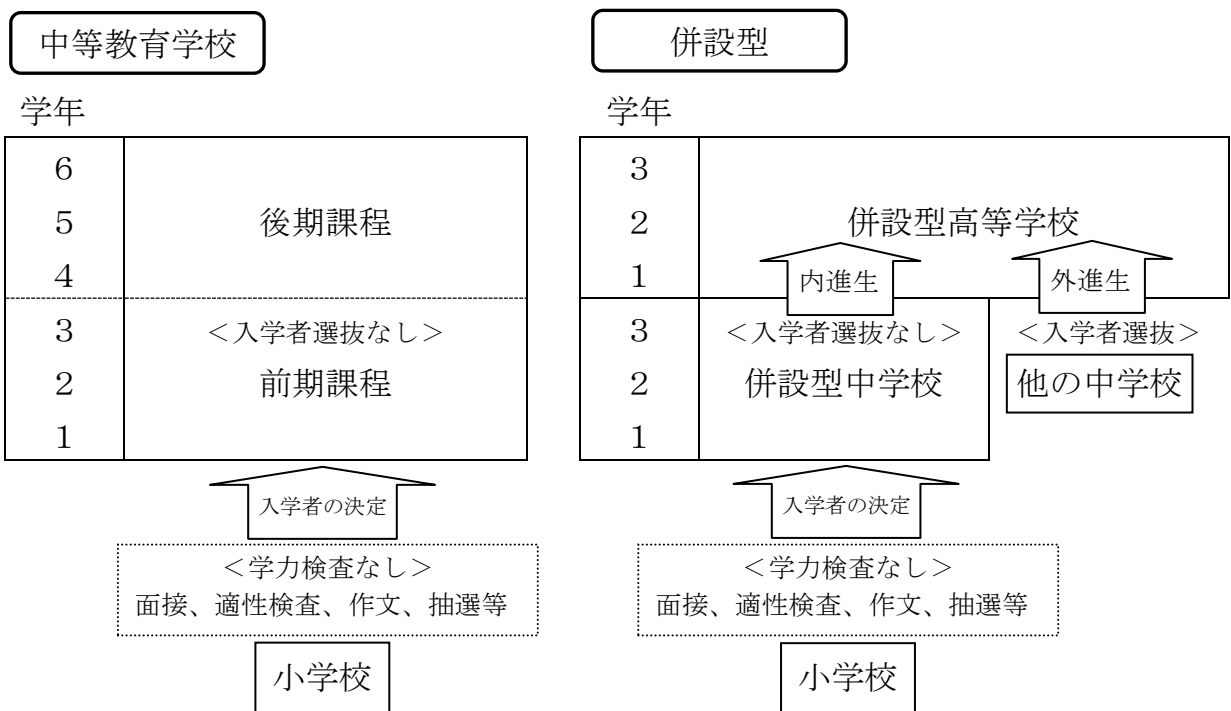
5 各都道府県市への中高一貫教育についてのアンケート調査結果（資料 6）

山形県中高一貫教育校設置構想 概要

平成 21 年 6 月
山形県教育委員会

1 中高一貫教育の概要

- 中学校と高等学校を 6 年間で継続的に教育する制度である。
- 中等教育学校、併設型、連携型の設置形態がある。(連携型は金山、小国地区で実践)



- 一つの学校として、6年間で一体的に中高一貫教育を行うもの。高等学校入学選抜の影響を受けず、生徒集団が同一メンバーに固定される。
- 6年間の計画的・継続的な教育活動を最も効果的に展開できる。

- 中学校3年、高等学校3年であり、設置者が同じ。併設型中学校からは、入学選抜なしで、併設型高等学校に入学が可能である。
- 中等教育学校に準じた教育効果が期待できることに加え、固定化しやすい人間関係を緩和することができるなどの利点もある。

特色・意義

- ① 高等学校入学選抜なし
- ② 6年間の計画的・継続的な教育活動（知識の活用や探究の時間が充実）
- ③ 小学校卒業段階における進路選択肢の拡大
- ④ 幅広い年齢集団による活動

2 新たな中高一貫教育校の設置構想

□ 設置形態

- 併設型中高一貫教育校の設置を基本とする

□ 設置場所及び通学区（学区）

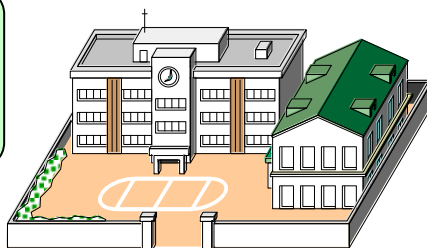
- 当面、内陸地区と庄内地区にモデル校を設置し、実践を検証した上で、将来的には、県内4学区への設置を検討する
- 交通の利便性がよく、既存の中学校の生徒数等への影響が極力小さい場所に設置する
- 学区は県内一円とする

□ 設置学科

- 高校卒業後の進路選択の幅が広い普通科を基本とする

目指す学校像

- 体験の積み重ね等を通して、個性や創造性を伸ばすことができる学校



- 子どもたちが描く将来の希望と6年間の学びとが直結する学校

- 専門性の深化・高度化を図る探究的な学習活動を実現する学校

**個性を伸ばす6年
能力を伸ばす6年**

- 教師が子どもとじっくり向き合い、きめ細かい教育を実践する学校

育てる生徒像

- 社会に貢献するという強い意思を持って、自分の進路を選択し、独り立ちできる人間
- 自分の選択した分野でリーダーシップを発揮し、温かい心を持って未来の山形を切り拓く人間

教育方針

- 豊かな体験を通して、3・3制(従来の中学校・高等学校)で伸ばしきれなかった生徒の個性・能力を伸長する
- 「知る」楽しさ、「わかる」喜び、「知識を活用する」面白さを伝える
- なりたい自分を実現するために、自分の未来を切り拓く「学力」をつける

県立東根中高一貫校（仮称）教育基本計画【概要】

平成24年3月
山形県教育委員会

東根中高一貫校(仮称)は、6年間の計画的・継続的な教育活動により、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし、大学進学等の進路目標を達成した上で、将来は、魅力あるリーダーとして社会の様々な分野で活躍し、未来の山形県、日本、そして世界を支える人間を育成するために設置される山形県初の併設型中高一貫校です。

学校の概要

県立東根中高一貫校（仮称）

併設型高等学校

<内進生>

<外進生>

入学の
意思確認

県立高等学校
入学者選抜

併設型中学校

市町村立中学校等

適性検査、作文
面接、調査書

市町村立小学校等

- ▶ **開校予定** 平成28年4月
- ▶ **入学定員**
 - ◆ 併設型中学校 99名
 - ◆ 併設型高等学校 普通科 200名
- ▶ **設置場所**
東根市中央南一丁目（東根市役所南側用地内）
及び現東根工業高等学校敷地内
- ▶ **通学区域**
 - ◆ 併設型中学校 県下一円
 - ◆ 併設型高等学校 県下一円（予定）

基本理念

高い志

創造的知性

豊かな人間性

【育てる生徒像】

- 夢の実現を目指し、前向きにチャレンジする生徒
- リーダーシップを発揮して、社会の発展に貢献する生徒

- 豊かな感性を育み、知る楽しさを実感しながら、探究する生徒
- 自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒

- 互いに高め合いながら、心身ともに健康に生きる生徒
- 自律と協調の精神で、より良い社会を形成する生徒

【目指す学校像】

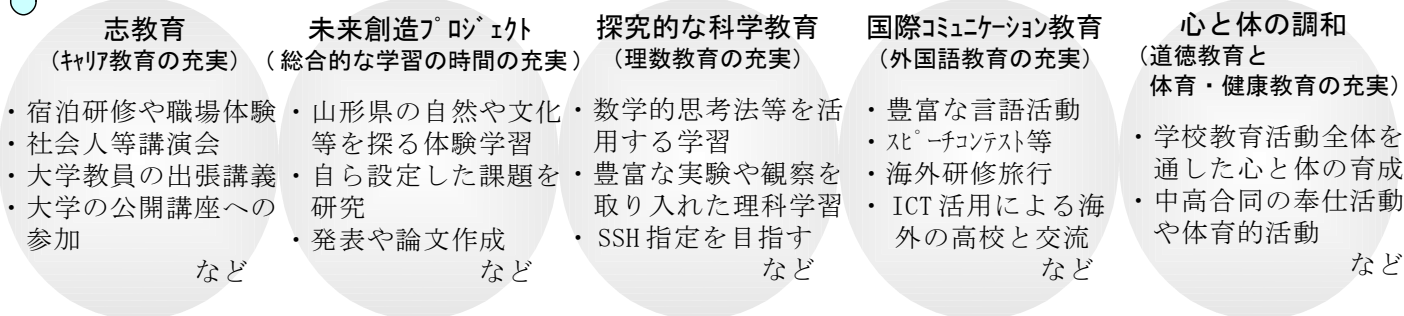
- 6年間の系統的なキャリア教育の実践
- 課題研究を中心とした総合的な学習の時間の充実
- 継続的に大学や研究機関と連携した教育の実践

- 体験的活動と学び合いを重視した授業の実践
- 理数教育と外国語教育に重点を置いた教育課程の編成
- 少人数授業等によるきめ細かな授業の実践

- 中高一貫の一体感のある学校づくり
- 中高生が共同で企画運営する多彩な特別活動の実践
- 道徳教育と体育・健康教育の充実

教育課程の特色

- **6年間を見通した教育課程**
 - ・高校の学習内容を盛り込んだ学習（中学校）
 - ・単位制を生かした豊富な選択科目（高校）
- **探究的な学びを実現する授業時間**
 - ・1週間の授業時数：中学校30時間、高校32時間
 - ・中学校、高校ともに55分授業
- **中学校と高校の日課の統一**
 - ・中高双方の教員による交流授業
 - ・中高合同の学校行事や生徒会活動



入学者選抜

◆ 併設型中学校

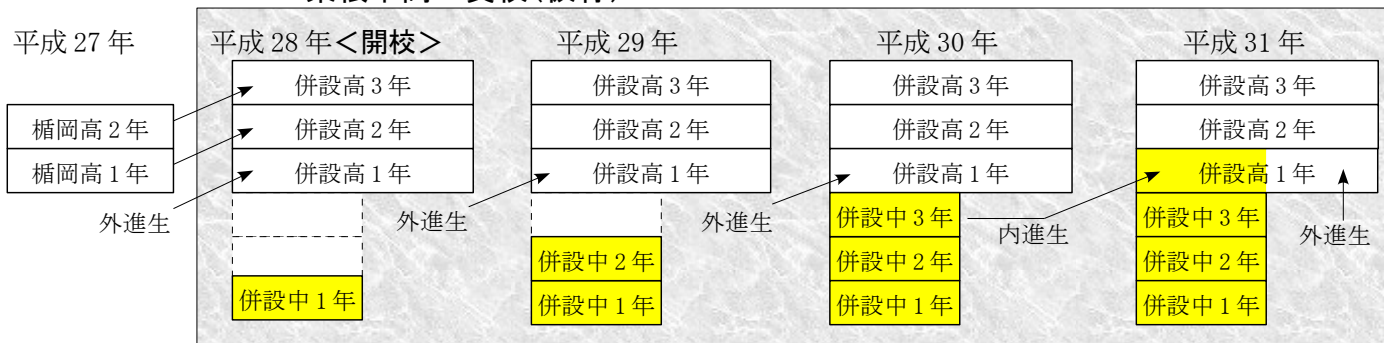
適性検査、作文、面接、調査書により、この学校における学習への適応能力、学ぶ意欲等を総合的に判断し、入学者を選抜

◆ 併設型高等学校

- ◆ **内進生** 入学者選抜は行わず、入学の意思確認を経て、併設型高等学校へ進学
- ◆ **外進生** 山形県公立高等学校入学者選抜を経て併設型高等学校へ進学

移行期の対応

東根中高一貫校(仮称)



開校に向けた準備組織及びスケジュール

	H24 年	H25 年	H26 年	H27 年
準備組織	開校整備委員会		開校準備委員会	
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な教育課程の編成（中高） ○学校行事等の検討 ○入学者選抜実施計画 ○施設整備計画 ○教育基本計画に係る地域説明会の実施 など 		<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の決定 ○校名、校歌、校章の決定 ○入学者選抜試行テスト実施（H26） ○入学者選抜実施（H27） ○学校説明会の実施 など 	
建設計画	<詳細検討>	基本設計 実施設計	新校舎・体育館 運動場・外構工事	

山形県立東桜学館中学校・高等学校 『未来創造プロジェクト』全体計画

資料3

基本理念
高い志 創造的知性 豊かな人間性

学校教育目標

- ① 地域社会及び国際社会の発展に貢献しようとする高い志を育てる。
- ② 豊かな感性や探究心と論理的な思考力を基盤とした創造的知性を育てる。
- ③ 心身ともに健やかで、郷土愛と公共の精神に富む豊かな人間性を育てる。

『未来創造プロジェクト』基本目標

山形県に対する誇りと愛着を育みながら、事象を総合的に追究する方法を身につけ、様々な分野の中から主体的に課題を見だし、多様な他者と協同して課題を解決する探究活動に進んで取り組む能力と態度を育てるとともに、自己の生き方や社会参画の在り方を考えることができるようにする。

「育てようとする資質・能力・態度」			内容		
	学びを活用する力	自己を認知する力	社会を形成する力		
発展期	○ これまで学んだ学習方法をもとに、新たな課題の解決取り組み、変化する時代に対応できる力	○ 自分の興味や適性を正しく捉え、将来の夢や希望の実現までの道筋を構想できる力	○ 公共のため、課題意識を持ち、社会活動に参画し、貢献しようすることができる力	高3	論文作成 提言
	○ 養成期の学びの基礎の上に、広い視野に立ち設定した自分の課題を様々な手法で解決できる力	○ 自らの行為に当事者意識と責任感をもって、意志決定できる力	○ お互いの良さを認め、個々のもつ特徴を生かしながら、協同して課題を解決できる力	高2	個人研究
	○ 身近な地域における、共通の課題を、基本的な学びの手法を用いて解決できる力	○ 自らの生活の在り方を見直し、向上のため日常的な実践を行うことができる力	○ 自分の考えを大切にしながら、他人の意見や考えを受け止め、尊重することができる力	高1	グループ 探究Ⅱ (比較文化)
伸長期				中3	個人探究
養成期				中2	グループ 探究Ⅰ (郷土)
				中1	

※ キャリア教育その他の内容：適切な時期・期間に設定
プレゼンテーションや論文作成など多様な表現の場の設定
国際理解 ↑(視野の拡大) ↓
郷土を知る

指導体制

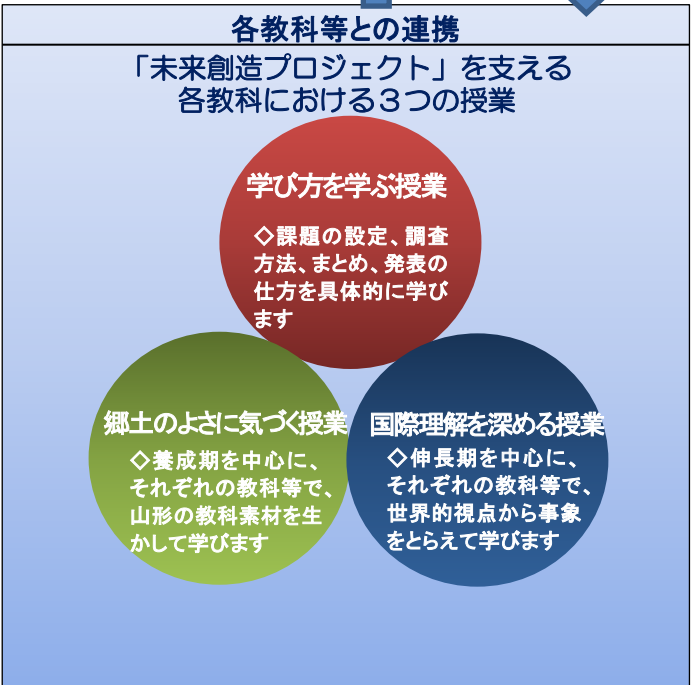
- 全校態勢での指導
授業での連携、高校におけるゼミの支援
- 校務分掌
担当分掌の設置と教科・学年との連携の推進

指導方法

- 概観図などを活用し、6年間の見通しをもたせた上で学習させる。
- 必然性のある課題設定となるように工夫する。
- PDCAサイクルによる探究活動の評価改善を行い、付けたい力を育成する。
- 仲間や出会う人々とのコミュニケーションや協同性を重視する。
- 中高の教員が指導方法について共に研究することで、中高一貫校として効果的な指導の在り方を探る。

家庭・地域等との連携

- 地域住民、教員、小学生に対する発表会等への参加の呼びかけ
- 地域人材等の活用



1学年					2学年											
月	時数	【グループ探究 I】	身近なところからデザイン(よりよく)する。 (デザイン思考を活かし、自分の身の回りに目を向けながらよりよくしようとする姿勢と発想を生み出す)	月	時数	【個人探究 I】	やまがたの未来をデザイン(よりよく)する。 (デザイン思考を活用し、社会の発展のために問題の解決方法を考える)	月	時数							
4月	1	学習スキル	ガイダンス	全学年合同	4月	1	ガイダンス	全学年合同	4月	1	学習スキル	ガイダンス	全学年合同			
	2		2年生交流	学年		2	2年生交流	学年		2	2年生交流	学年	2	2年生交流	学年	
	3		デザイン思考演習	学年・学級		3	問題への共感	学級・個人		3	問題への共感	学級・個人	3	現状理解・課題発見	問題への共感	学級・個人
5月	4	7	デザイン思考演習	学年・学級	5月	4	深いニーズを調査	学級・個人	5月	4	6	意見交流アドバイス	個人・サポメン			
	5		デザイン思考演習	学年・学級		5	テーマ設定	個人・サポメン		5		テーマ設定	個人・サポメン	5	深いニーズを調査	学級・個人
6月	6	6	問題への共感・深いニーズを調査	学級・個人	6月	6	グループ分け	学級	6月	6	6	情報収集	個人			
	7		デザイン思考演習	学年・学級		7	グループ分け	学級		7		夏休み課題	個人	7	情報収集調査	個人
	8		問題への共感・深いニーズを調査	学級・個人		8	テーマ設定	学級・グループ		8		情報収集調査	個人	8	調査計画	個人
7月	9	6	グループ分け	学級	7月	9	テーマ設定	グループ	7月	9	6	夏休み課題	個人			
	10		デザイン思考演習	学年・学級		10	スキル学習情報収集	学年・グループ		10		夏休み課題	個人	10	夏休み課題	個人
	11		デザイン思考演習	学年・学級		11	夏休み課題	学年・グループ・個人		11		夏休み課題	個人	11	夏休み課題	個人
8月	12	6	グループ分け	学級	8月	12	スキル学習	学年・グループ	8月	12	6	夏休み課題	個人			
	13		デザイン思考演習	学年・学級		13	夏休み課題	学年・グループ・個人		13		夏休み課題	個人	13	夏休み課題	個人
	14		デザイン思考演習	学年・学級		14	夏休み課題	学年・グループ・個人		14		夏休み課題	個人	14	夏休み課題	個人
9月	15	6	グループ分け	学級	9月	15	夏休み課題	学年・グループ・個人	9月	15	6	夏休み課題	個人			
	16		デザイン思考演習	学年・学級		16	夏休み課題	学年・グループ・個人		16		夏休み課題	個人	16	夏休み課題	個人
	17		デザイン思考演習	学年・学級		17	夏休み課題	学年・グループ・個人		17		夏休み課題	個人	17	夏休み課題	個人
10月	18	6	グループ分け	学級	10月	18	夏休み課題	学年・グループ・個人	10月	18	6	夏休み課題	個人			
	19		デザイン思考演習	学年・学級		19	夏休み課題	学年・グループ・個人		19		夏休み課題	個人	19	夏休み課題	個人
	20		デザイン思考演習	学年・学級		20	夏休み課題	学年・グループ・個人		20		夏休み課題	個人	20	夏休み課題	個人
11月	21	6	グループ分け	学級	11月	21	夏休み課題	学年・グループ・個人	11月	21	6	夏休み課題	個人			
	22		デザイン思考演習	学年・学級		22	夏休み課題	学年・グループ・個人		22		夏休み課題	個人	22	夏休み課題	個人
	23		デザイン思考演習	学年・学級		23	夏休み課題	学年・グループ・個人		23		夏休み課題	個人	23	夏休み課題	個人
12月	24	6	グループ分け	学級	12月	24	夏休み課題	学年・グループ・個人	12月	24	6	夏休み課題	個人			
	25		デザイン思考演習	学年・学級		25	夏休み課題	学年・グループ・個人		25		夏休み課題	個人	25	夏休み課題	個人
	26		デザイン思考演習	学年・学級		26	夏休み課題	学年・グループ・個人		26		夏休み課題	個人	26	夏休み課題	個人
1月	27	6	グループ分け	学級	1月	27	夏休み課題	学年・グループ・個人	1月	27	6	夏休み課題	個人			
	28		デザイン思考演習	学年・学級		28	夏休み課題	学年・グループ・個人		28		夏休み課題	個人	28	夏休み課題	個人
	29		デザイン思考演習	学年・学級		29	夏休み課題	学年・グループ・個人		29		夏休み課題	個人	29	夏休み課題	個人
2月	30	6	グループ分け	学級	2月	30	夏休み課題	学年・グループ・個人	2月	30	6	夏休み課題	個人			
	31		デザイン思考演習	学年・学級		31	夏休み課題	学年・グループ・個人		31		夏休み課題	個人	31	夏休み課題	個人
	32		デザイン思考演習	学年・学級		32	夏休み課題	学年・グループ・個人		32		夏休み課題	個人	32	夏休み課題	個人
3月	33	6	グループ分け	学級	3月	33	夏休み課題	学年・グループ・個人	3月	33	6	夏休み課題	個人			
	34		デザイン思考演習	学年・学級		34	夏休み課題	学年・グループ・個人		34		夏休み課題	個人	34	夏休み課題	個人
	35		デザイン思考演習	学年・学級		35	夏休み課題	学年・グループ・個人		35		夏休み課題	個人	35	夏休み課題	個人

平成30年度 山形県立東桜学館中学校 未来創造プロジェクト 年間指導計画

		3学年				
月	時数	【グループ探究 II】	社会に貢献できる未来の自分をデザインする。 (自分の興味関心に基づき、調査・研究し、社会の多岐にわたる分野において活躍、貢献できる資質能力を身につける)			
4月	1	11	ガイダンス	全学年合同	○1年を通したガイダンス(学年→全体)	
	2				☆デザイン思考ガイダンス	
	3				○『マインドマップで関心領域を見つけよう ～研究のたね探し～』	
	4					○似ている関心領域ごと3人のG分け(教し方なければ2人)
	5					
	6					○研究課題の知識・理解を深める 情報収集
5月	7	11	研究課題の知識・理解	グループ	○研究課題の決定	
	8				○リサーチクエスションの設定	
	9					○仮説を立てて調査・研究の方向性を定める
10	○リサーチクエスションの見直しチェック					
6月		11	11	研究の見通し	グループ	○夏休みの課題研究について ○有識者・関係者インタビュー内容検討・計画
	12	グループ				
	13					
7月	14	5	夏休み課題	グループ	○リサーチクエスションに関する情報収集 ○文献調査・アンケート調査・参与観察のめぼしつけ・実験	
	15					グループ
	16					
8月	17	13	情報収集調査	グループ	○夏休み研究計画書・これからの研究の見通し ○夏休み研究成果まとめ	
	18					グループ
	19					
9月	20	13	夏休み課題	グループ	○☆夏休みの課題研究レポートをもとに意見交流 ○フィールドワーク先検討	
	21					グループ
	22					
10月	23	13	再調査情報収集	グループ	○調査・研究の軌道修正 ○フィールドワーク訪問先検討	
	24					グループ
	25					
11月	26	13	フィールドワーク準備	グループ	○フィールドワーク計画書記入・提出 ○校外学習届け提出 ○質問・インタビュー内容の検討・参与観察の目的検討 ○調査・実験	
	27					グループ
	28					
12月	29	13	情報収集調査	グループ	○調査・実験 ○校外学習事前指導	
	30					グループ
	31					
1月	32	13	事後活動	グループ	○お礼状書き・デジカメデータ移し	
	33					グループ
	34					
2月	35	10	分析考察結論	グループ	○情報整理・分析・論理の組み立て ○実験・結果・考察 ○結論・展望	
	36					グループ
	37					
3月	38	10	表現・技能	グループ	○パワーポイント作成 ○シナリオ原稿作成 ○発表の仕方検討・練習	
	39					グループ
	40					
3月	41	10	表現・技能	グループ	○シナリオ原稿の完成 ○発表練習	
	42					グループ
	43					
3月	44	10	表現・技能	グループ	○事前準備	
	45					グループ
	46					
3月	47	10	表現・技能	グループ	○☆パワーポイントによる発表	
	48					グループ
	49					
3月	50	2	探究のまとめ	グループ	○振り返り・自己評価アンケート	
	51					グループ
	52					
3月	53	2	探究のまとめ	グループ	○研究の概要原稿作成	
	54					グループ
	55					

東桜学館中学校開校の影響等の

調査結果のまとめ

1 調査の目的

東根市をはじめとする近隣市町への影響を調査し、分析することにより、本県の中高一貫教育のより一層の充実を図るため。

2 調査対象（北村山地区3市1町・天童市・河北町）

- (1) 近隣市町教育委員会 計6教育委員会
- (2) 近隣市町立小学校 計43校
- (3) 近隣市町立中学校 計16校

3 調査の概要

- (1) 期間：平成30年8月上旬～9月上旬
- (2) 方法：上記調査対象へのアンケート調査

平成30年10月

高校改革推進室

1 教育委員会 東桜学館中学校開校の影響等調査の結果

質問1 教育委員会が新たに実施した事業や取組み、また変更して実施した取組み等

- ・ 現在のところ特にありませんが、県立東桜学館中学校のある隣接市として、これまで以上によりよい生徒を育成ができるよう、様々な教育環境を整え児童生徒にとっても保護者にとっても、地域の方々にとっても魅力ある学校づくりを推進していく必要があると考えています。
- ・ 算数・数学チャレンジカップ 平成28年度から実施
- ・ サイエンスアカデミー 参加案内を送り、希望者が参加
- ・ イングリッシュキャンプ 参加案内を送り、希望者が参加
- ・ 学力向上支援員の配置 市内小中学校14校に、1名ずつ
- ・ A L Tの増員 今年度8月より7名に（2名増）

質問2 その他

- ・ 市内小中学校教育の活性化につながっている。
- ・ 入学を目指す児童の学習意欲は高まった。一方、不合格になり市立中学校に入学した生徒は、入学時からモチベーションが低く、1年生の担任団には、これまでにない学級経営や教育相談の気遣いが増えた。
- ・ 本市からは、毎年3名程度進学しており、年度によっては中学1年生の在籍人数や集団の構成に少なからず影響を及ぼすこともある。（各校の上位層が進学によって抜けるため）
- ・ 東桜学館中学校への進学に伴う市立中学校入学生徒の減少に伴い、当初予定されていた学級数が減少するケースがみられました。学級数の減少は、教職員の減少につながり、中学校教育における人的環境に少なからず影響があると考えられます。
- ・ 少子化による生徒数減少の影響が大きいですが、市内中学校で、H30年度から、一部の部活動を募集停止にしたケースがある。
- ・ 学級編制の問題です。2学級になるのか3学級になるのかの学級編制（特別支援学級とのからみも含めて）で、東桜学館中学校への進学者数がそれに影響を受けた（受ける）ことです。
- ・ やむをえないのですが、優秀な教員が東桜学館に異動してしまうことです。

2 小学校 東桜学館中学校開校の影響等調査の結果

質問1 学校行事・学年行事等への影響について

(1) 学校行事・学年行事等における児童の様子の変化

	変化があった		ほとんど変化がなかった	
	1校	2.3%	42校	97.7%
全体	1校	2.3%	42校	97.7%
天童市	0校	0.0%	12校	100.0%
東根市	0校	0.0%	9校	100.0%
村山市	1校	14.3%	6校	85.7%
尾花沢市	0校	0.0%	6校	100.0%
大石田町	0校	0.0%	3校	100.0%
河北町	0校	0.0%	6校	100.0%

《具体的な内容（▲：マイナス）》

▲ 塾などの東桜学館の模試に参加するため、学年行事へ不参加という場合があった。

(2) 指導の在り方や取組みを変更したこと

- ・ 1月下旬に行われる地元中学校の学校説明会には、東桜学館開校前は6年生が平日午後を担当が引率して参加していたが、開校後の説明会は土曜日開催となり、保護者とともに地元中学校へ進学予定の児童のみ参加するようになった。
- ・ 地元中学校の学校説明会の期日を、平日から、土曜日に行ってもらった。

質問2 生活指導や生徒指導への影響について

(1) 生活規律や社会性・主体性等、児童の生活の様子の変化

	変化があった		ほとんど変化がなかった	
	1校	2.3%	42校	97.7%
全体	1校	2.3%	42校	97.7%
天童市	0校	0.0%	12校	100.0%
東根市	1校	11.1%	8校	88.9%
村山市	0校	0.0%	7校	100.0%
尾花沢市	0校	0.0%	6校	100.0%
大石田町	0校	0.0%	3校	100.0%
河北町	0校	0.0%	6校	100.0%

《具体的な内容（○：プラス）》

○ 受検を希望する児童が6年進級時に、進んで児童会の役員を引き受けようとしたり、ボランティア活動に参加しようとしたりする積極性が見られた。

(2) 指導の在り方や取組みを変更したこと

- ・ 卒業式の時期が近づいたところで、卒業式での制服が違うことを学年内で事前に話をしている。

質問3 学習指導への影響について

(1) 学習の習熟や意欲等、児童の学習の様子の変化

	変化があった		ほとんど変化がなかった	
	校数	割合	校数	割合
全体	10校	23.3%	33校	76.7%
天童市	3校	25.0%	9校	75.0%
東根市	5校	55.6%	4校	44.4%
村山市	1校	14.3%	6校	85.7%
尾花沢市	0校	0.0%	6校	100.0%
大石田町	0校	0.0%	3校	100.0%
河北町	1校	16.7%	5校	83.3%

《具体的な内容（○：プラス）》

- 東桜学館中学校への進学を希望する児童は、学習意欲が高く、難しい問題にもあきらめずに取り組む姿勢が見られる。そのことによって、周りの上位層の児童の学習意欲が高まっていると感じる。
- 東桜学館を目指そうとする児童の学習意欲と学習量が向上した。（授業態度・発言・授業の聞き方・成績等）
- 目標ができ、学習や家庭学習に意欲的に取り組む姿がみられた児童がいた。
- 東桜学館中への進学を目指し、目標をもって学習に取り組む子どもの姿が見られる。
- 自分の言葉で記述したり話したりする活動において、受検希望の児童は模範的な表現力を発揮し、学級全体へよい刺激となった。
- 小学校卒業後の進路について考える子どもが増えた。特に、高学年では、小学校卒業後の進路に向け、家庭学習等に意欲をもって取り組むようになった子どもがいる。
- 受検を目指して学習に意欲的に取り組んだり、学習塾に通ったりする児童が見られるようになった。
- 受検に臨む児童は、学習への意欲が高まった。分からないところを聞きに来たり、自主学習で発展的な内容に取り組んだりする姿が見られた。
- 東桜学館への入学を考えている児童は、意欲的に算数の発展問題に挑戦したり、新聞を読み自分なりの感想を自学に書いたり意欲的に学習に取り組むようになった。
- 夏休み期間も意欲的に自学等に取り組んだ児童がいた。
- 貴校への入学を希望している児童において、より主体的に学ぶ姿勢が生まれたり、塾等に行って学習する時間が増えたりするなどの変化が出てきた。
- 受検を希望している子は、授業において積極的に発言したり、家庭学習で熱心に復習に取り組んだり、学習意欲が高まっていた。

(2) 指導の在り方や取組みを変更したこと

- ・ 東桜学館中学校入試問題を6年生の授業で取り上げて学習するようにしました。
- ・ 入選の問題を職員で解き、どんな力が求められているか研修した。
- ・ 東桜学館中の開校を意識してということだけではないが、児童の主体的な取り組みを促す授業づくりを心がけ、思考・判断・表現力の育成に努めている。
- ・ 探究型学習（主体的・対話的で深い学び）となるように、校内研究において授業

改善に取り組んでいる。

- ・ 探究型の学習活動を重視した授業づくりを展開し、活用型の問題にも対応できるよう授業研究を行っている。

質問4 受検に係る指導について

全体	行っている		行っていない	
	9校	20.9%	34校	79.1%
天童市	2校	16.7%	10校	83.3%
東根市	2校	22.2%	7校	77.8%
村山市	1校	14.3%	6校	85.7%
尾花沢市	2校	33.3%	4校	66.7%
大石田町	0校	0.0%	3校	100.0%
河北町	2校	33.3%	4校	66.7%

《具体的な内容》

- ・ 受検することの意義や合格発表後の生活の仕方等についての指導を行った。学校長自作のプリントを使い、学校長から受検者に対して直接話をする時間を設けた。
- ・ 受検に対する心構えや面接等の練習や受検後の心のケアなど。
- ・ 受検する児童を取り出さずに、6年生全体に授業の一環として、テストの受け方指導（問題の読み取りのポイント、問題に対する答え方等）指導を10回程度行った。
- ・ 受検する前には、落ち着いて力を発揮できるようにと、個別に励ましの声をかけた。受検後には、自分なりに振り返らせ、ねぎらいの声をかけた。
- ・ 受検をした児童とその他の児童に対して、卒業や進学についての指導を配慮しながら行った。（個別に、またはわけ隔てることなく）
- ・ 受検する児童及び保護者の意向をもとに、受検することや合否を他児童へは知られないようにしたり、卒業式間近に東桜学館中学校へ進学することを知らせたりするなど、合格・不合格が絡むデリケートな内容であるだけに配慮している。
- ・ 合否によって、本人と子ども同士の関係性について、配慮している。進学についてのフォローができるように、教師の共通理解を図り、対応の仕方を確認している。
- ・ 不合格となった児童がいる場合は心情面を配慮し、担任等が家庭訪問を行い、精神的なダメージの軽減を図るようにしている。
- ・ 入試間近になり、家族の期待や塾通いの多忙からくる疲れなどによるプレッシャーからイライラしている様子が見受けられたため、担任が話を聞いたり、励ましたりした。
- ・ 選考に外れた児童への心のケア。
- ・ 合格しなかった児童への精神的フォロー。
- ・ 残念ながら合格できなかった子どもへの心のケアを行った。受検した子ども達（合否にかかわらず）に対する周りの子ども達の言動について指導を行った。

質問5 その他

- ・ 地域子どもたちに進路選択の幅が広がったことは、大変よいことだと考えている。
- ・ 保護者にとっても、児童にとっても進路選択の幅が広がったことは、将来の見通しについて家庭で話し合う機会が増えることにつながっている。
- ・ 子どもたち・保護者にとって、進学の実選択肢が増えたことは良いことだと思われる。
- ・ 東桜学館が開校して、進路の実選択肢が広がってよいと思います。
- ・ 中学進学に向けた進路選択の幅が広がり、自己実現に向けた多様な道筋ができたことは大変良いことであると考えます。
- ・ 東根市の活性化に大いに貢献している。小学校卒業後の進路選択の幅が広がったことが、子ども達の中で、身近になった。市内にある進学校として、保護者の期待が高まった。
- ・ 学区内に県立中高一貫校が開校したことで、保護者・地域住民の教育への関心が高まっていると感じます。地元の小学校として、本校の教育活動改善の機会とし、子どもたちが楽しく過ごし、力を伸ばす学校づくりを進めていきたいと考えています。
- ・ 学習に対して主体的に意欲的に取り組む児童が増えました。東桜学館の入学者選抜という目標ができて良いことだと思う。
- ・ 本校からは多くの児童がお世話になっています。受検を意識し、学習に対する意欲や姿勢が高まっています。今後ともよろしく願いいたします。
- ・ これからの時代を生きる子ども達には、全国学力・学習状況調査や山形県学力等調査の内容からもわかるとおり「自分の考えを文章で記述・論述する力」が求められています。東桜学館中学校の受検方法も、教科ごとの問題ではなく、総合的な力をみる「作文」と「面接」を重視していることは、教育のすう勢に合ったものだと思います。
- ・ これからのことになるとは思いますが、中学卒業後の進路の状況など教えていただければと思います。(保護者の方や教職員の間で話題になるのが、東桜学館中学校に進むか、高校で進学校を受検させた方がよいのか非常に迷うということのようです。)
- ・ 今年度入学した児童の頑張っている様子を本人より聞いております。これからも温かなご指導よろしく願いいたします。
- ・ 開校に関わって、本校、地域についてこれまでの状況を振り返ると、本校への影響は少ないととらえています。
- ・ 本校は小規模校ということもあり、東桜学館開校以来1名しか受検の実績がありません。上記アンケートでも回答したとおり、特に大きな影響は認められません。
- ・ 保護者と連携して合格、不合格の両方を想定して事前に何らかの指導が必要であると感じています。
- ・ 6学年における学習内容が問題に出ているが、カリキュラムマネジメントが叫ばれている中で単元の移動が考えられる。1月の受検までに学習していない内容からの出題があった場合、受検する子や保護者に対してどのように対応すればよいか悩むところでもある。小学校の学習内容すべてから出題というのであれば仕方がないことなのでしょうが、どのように考えたらよろしいでしょうか教えていただきたい。

3 中学校 東桜学館中学校開校の影響等調査の結果

質問1 学校行事・学年行事等への影響について

(1) 学校行事・生徒会活動等における生徒の様子の変化

全体	変化があった		ほとんど変化がなかった	
	5校	31.3%	11校	68.8%
天童市	2校	50.0%	2校	50.0%
東根市	2校	40.0%	3校	60.0%
村山市	0校	0.0%	2校	100.0%
尾花沢市	1校	33.3%	2校	66.7%
大石田町	0校	0.0%	1校	100.0%
河北町	0校	0.0%	1校	100.0%

《具体的な内容（○：プラス、▲：マイナス）》

- ▲ 小学校時にリーダーとして活躍していた児童が東桜学館へ進学したと聞いている。中学校での生徒会役員候補者が減少したように感じる。（立候補者の減少）
- ▲ リーダーとなる生徒の層が薄くなっており、指導者の支援が必要な場面が増えたと感じる。
- ▲ 小規模校にとっては、リーダー的存在の生徒が一人でも欠けることは、集団としての力が低下し、様々な活動に影響があると思われる。
- ▲リーダーと思われる生徒が減少したが、より多くの生徒に活動の場を与えることができた。
- 入学生徒減により、生徒会専門委員会・諸行事等でリーダーの役割を担う生徒がより多くの生徒に割り振られることになった。
- 小学校の時にリーダー性を十分に発揮できなかった生徒が、それぞれの得意分野で積極的にリーダーとして活躍する姿が見られる。

(2) 指導の在り方や取組みを変更したこと

- ・ 中学校に入学してから、意図的・意識的にリーダーを育成し生徒会等で活躍する生徒を確保していくようにしなければならないことが話題になり、確認している。
- ・ 行事や生徒会活動の運営に限らず、教師の支援を多く必要とするようになった。
- ・ 教員数減により、生徒会専門委員会を指導できる教員がいなくなり、委員会活動を見直し統合することで委員会数を減らした。
- ・ 大きく変更したことはないが、以前より課題となっていた生徒会の専門委員会を改編して委員会の数を削減した。
- ・ 東桜学館開校前は、地元の小学校6年生を対象として1月に「新入生学校説明会」を例年1年生が主体となって開催していた。この行事のみだと、東桜学館中学校に進学する児童は本校のことを知る機会がなくなってしまう、本校の良さを学区のすべての小学生に知ってもらいたいという思いで、開校にあわせて中学3年生の企画「いいねプロジェクト」の取組みを始めた。内容は本校の学校生活（授業、生徒会活動等）の説明や部活動体験活動を行っている。3年生の主体的な取組みとなり、来校した児童や教職員にも好評である。
- ・ 地域との交流、小学校との連携を重視した活動を活性化している。

質問2 生活指導や生徒指導への影響について

(1) 生活規律や社会性・主体性等、生徒の生活の様子の変化

	変化があった		ほとんど変化がなかった	
	校数	割合	校数	割合
全体	2校	12.5%	14校	87.5%
天童市	2校	50.0%	2校	50.0%
東根市	0校	0.0%	5校	100.0%
村山市	0校	0.0%	2校	100.0%
尾花沢市	0校	0.0%	3校	100.0%
大石田町	0校	0.0%	1校	100.0%
河北町	0校	0.0%	1校	100.0%

《具体的な内容（▲：マイナス）》

- ▲ トラブルの広域化に対する連携や情報共有の在り方を確認する必要がある。
- ▲ 主体的に行動できる生徒の減少。

(2) 指導の在り方や取組みを変更したこと

- ・ 生徒指導等必要な連携のあり方について検討されることを望みます。

質問3 学習指導への影響について

(1) 学習の習熟や意欲等、生徒の学習の様子の変化

	変化があった		ほとんど変化がなかった	
	校数	割合	校数	割合
全体	2校	12.5%	15校	87.5%
天童市	1校	25.0%	3校	75.0%
東根市	1校	20.0%	4校	80.0%
村山市	0校	0.0%	2校	100.0%
尾花沢市	0校	0.0%	3校	100.0%
大石田町	0校	0.0%	1校	100.0%
河北町	0校	0.0%	1校	100.0%

《具体的な内容（▲：マイナス）》

- ▲ 上位層や指導をリードする生徒の減少。
- ▲ 入学予定者が減少したことで、学級減になり、1学級40人弱で学習指導しなければならなくなった。

(2) 指導の在り方や取組みを変更したこと

- ・ 東桜学館中学校の授業研究会等に参加することにより、優れた実践を自校の学習指導にも生かそうとしている。
- ・ 人数の多い学級（学年1学級40人弱）では、教科によっては2グループに分けて指導している。
- ・ 昨年度、2学年数学において、特定の単元で習熟度別クラスを実施するなど、学習内容の定着を図る取組みを実施した。今年度は教員数の減少もあり実施できなかった。
- ・ よりていねいな指導。

質問4 部活動への影響について

	影響があった。		ほとんど影響がなかった	
	校数	割合	校数	割合
全体	4校	25.0%	12校	75.0%
天童市	1校	25.0%	3校	75.0%
東根市	2校	40.0%	3校	60.0%
村山市	0校	0.0%	2校	100.0%
尾花沢市	1校	33.3%	2校	66.7%
大石田町	0校	0.0%	1校	100.0%
河北町	0校	0.0%	1校	100.0%

《具体的な内容（▲：マイナス）》

- ▲ 生徒数の減少（微減ではあるが）によって、学級数が1学級減となり教員数も減となった。部活動の数を急に減らすことができないため、顧問の数が足りなくなっている。1つの部を一人で顧問を担当している部もあり、負担をかけている状況がある。そこで、部活動の数を減らす条件などを平成29年に整備した。
- ▲ 生徒数減・学級数減に伴う教員数の減により、部活動設置数を見直し、8つの内3つの部活動において今年度より募集を停止した。
- ▲ ある競技をスポーツ少年団で行ってきた有望な生徒が、東桜学館中へ入学した。
- ▲ 部員数が単独では確保できず、他校と合同チームで出場した。(女子バレーボール)

質問5 上記以外の取り組み

- ・ 地域との交流をますます重視し地域の子供を地域で育てる活動を活性化している。
- ・ 自校の魅力を再発見する機会と捉え、さくらんぼマラソン大会への協力をはじめとするボランティア活動の深化、職場体験をはじめとする地域連携活動の充実、三軍運動会や合唱中心の文化発表会など生徒実行委員会を中心とした主体的活動の推進など、自校の良さを自覚できるようにした。

質問6 その他

- ・ 気軽に教員交流ができ、東桜学館中学校の良さを学び、自校の教育活動にいかす機会が増えていくことで教員の成長にもつながるのではないかと。
- ・ 本校は、入学してくる生徒を大切に育てるのみです。
- ・ 小学校でPTA会長等の役員を務めていた人の子どもが東桜学館に進学することになり、中学校のPTA会長等の候補者として考えていた人がいなくなり、困ることがある。
- ・ 小学校でリーダー的な児童が受検するケースが多い。小規模校にとっては、生徒会運営、部活動運営に影響があったと思われる。
- ・ 東桜学館中学校の入試において、合格しなかった生徒が少なからずいる。その生徒達の心の内をはかり知ることが容易ではないが、負の自尊感情を抱いたことは想像に難くない。また、入学生徒数により教員数が変わり、学校経営の面で考慮すべき事項が生じてくるのは否めない。
- ・ 東桜学館中学校への進学者数によって、本校の学級編制が変化することにより、学校経営に大きな影響を与える。そこで、もっと早く入試を実施して、進学者を確定してほしい。

各都道府県市への中高一貫教育についてのアンケート調査結果

平成30年2月

高校教育課

1 目的

都道府県市が設置している併設型中高一貫教育校または中等教育学校の状況を調査し、本県の中高一貫教育のより一層の充実を図るため。

2 調査対象

47都道府県、20政令指定都市、長野市

3 調査の概要

(1) 期間：平成30年2月上旬～中旬

(2) 方法：上記調査対象へのアンケート調査

4 調査の結果

問1 現在、貴都道府県市が設置している併設型中高一貫教育校または中等教育学校はありますか。

調査対象の47都道府県、20政令指定都市、長野市のうち、

「ない」の回答

富山県
山梨県
岐阜県
愛知県
三重県
鳥取県
島根県
相模原市
静岡市
浜松市
名古屋市
堺市
神戸市
北九州市
福岡市
熊本市

問2 設置している併設型中高一貫教育校、中等教育学校について、ご回答ください。

都道府県市	形態	学校名	募集人員		選抜方法	志願倍率			校舎の敷地
			中	高		H28	H29	H30	
北海道	中等教育学校	北海道登別明日中等教育学校	80	—	出願理由等説明書、児童の状況調査、作文、面接及び実技の結果を総合的に評価	1.8	1.6	1.8	a
青森県	併設型	青森県立三本木高等学校附属中学校 青森県立三本木高等学校	80	240	適性検査、面接、調査書	1.76	1.49	1.35	a
岩手県	併設型	岩手県立一関第一高等学校附属中学校 岩手県立一関第一高等学校	80	240	適性検査、作文、面接を実施し、入学志願者の意欲や適性等を総合的に判断して選抜する。	2.05	2.03	2.08	a
宮城県	併設型	宮城県仙台二華中学校 宮城県仙台二華高等学校	105	135	適性検査(総合問題、作文、面接)、調査書	4.63	4.10	4.43	a
宮城県	併設型	宮城県古川黎明中学校 宮城県古川黎明高等学校	105	135	適性検査(総合問題、作文、面接)、調査書	2.28	2.20	1.94	a
秋田県	併設型	秋田県立横手清陵学院中学校 秋田県立横手清陵学院高等学校	70	150	入学願書、報告書、適性検査、作文、面接	0.94	0.94	0.66	a
秋田県	併設型	秋田県立大館国際情報学院中学校 秋田県立大館国際情報学院高等学校	70	175	入学願書、報告書、適性検査、作文、面接	1.33	0.84	0.81	a
秋田県	併設型	秋田県立秋田南高等学校中等部 秋田県立秋田南高等学校	80	240	入学願書、報告書、適性検査、作文、面接	4.25	2.58	2.43	a
山形県	併設型	山形県立東桜学館中学校 山形県立東桜学館高等学校	99(男女同数程度)	200	適性検査、作文、調査書、集団面接	2.68	2.40	2.24	a
福島県	併設型	福島県立会津学鳳中学校 福島県立会津学鳳高等学校	90	240	適性検査、作文、面接、調査書	2.53	1.99	2.06	a
茨城県	併設型	茨城県立日立第一高等学校附属中学校 茨城県立日立第一高等学校	80	160	適性検査、面接	3.19	3.03	3.13	a
茨城県	中等教育学校	並木中等教育学校	160	—	適性検査、面接	4.17	4.47	3.92	a
茨城県	中等教育学校	古河中等教育学校	120	—	適性検査、面接	2.53	2.22	2.11	a
栃木県	併設型	宇都宮東高等学校 宇都宮東高等学校附属中学校	105(男女のいずれかが6割を超えない)	160	適性検査、作文、面接	4.58	4.48	4.53	a
栃木県	併設型	佐野高等学校 佐野高等学校附属中学校	105(男女のいずれかが6割を超えない)	160	適性検査、作文、面接	2.85	2.47	2.35	a
栃木県	併設型	矢板東高等学校 矢板東高等学校附属中学校	70(男女のいずれかが6割を超えない)	160	適性検査、作文、面接	2.64	2.90	2.84	a
群馬県	中等教育学校	群馬県立中央中等教育学校	120	—	適性検査Ⅰ・Ⅱ 面接	4.1	3.8	4.0	a
埼玉県	併設型	埼玉県立伊奈学園中学校 埼玉県立伊奈学園総合高等学校	80	720	作文、調査書、面接	5.40	5.10	4.60	a
千葉県	併設型	千葉県立千葉中学校 千葉県立千葉高等学校	80(男女同数を基本とする)	240	一次検査(適性検査1-1、1-2) 二次検査(適性検査2-1、2-2、面接)	9.9	9.6	9.0	a

千葉県	併設型	千葉県立東葛飾中学校 千葉県立東葛飾高等学校	80(男女同数を基本とする)	240	一次検査(適性検査1-1、1-2) 二次検査(適性検査2-1、2-2、面接)	14.0	12.0	10.3	a
東京都	中等教育学校	東京都立小石川中等教育学校	160(男女同数)	-	【一般枠募集】 報告書、適性検査 【特別枠募集】 報告書、面接、作文	6.57	6.44	6.70	a
東京都	中等教育学校	東京都立桜修館中等教育学校	160(男女同数)	-	【一般枠募集】 報告書、適性検査	6.71	6.18	5.82	a
東京都	中等教育学校	東京都立立川国際中等教育学校	160(うち30を除いて、男女同数)	-	【一般枠募集】 報告書、適性検査 【海外帰国・在京外国人枠募集】	5.55	5.68	4.99	a
東京都	中等教育学校	東京都立南多摩中等教育学校	160(男女同数)	-	【一般枠募集】 報告書、適性検査	5.59	4.92	5.26	a
東京都	中等教育学校	東京都立三鷹中等教育学校	160(男女同数)	-	【一般枠募集】 報告書、適性検査	6.63	6.10	5.98	a
東京都	併設型	東京都立白鷗高等学校 東京都立白鷗高等学校附属中学校	160(うち24を除いて、男女同数)	80(男女同数程度)	【一般枠募集】 報告書、適性検査 【特別枠募集】 報告書、面接、実技試験	6.81	6.57	7.37	b 約0.4km
東京都	併設型	東京都立両国高等学校 東京都立両国高等学校附属中学校	120(男女同数)	80(男女同数程度)	【一般枠募集】 報告書、適性検査	8.36	6.83	6.43	a
東京都	併設型	東京都立武蔵高等学校 東京都立武蔵高等学校附属中学校	120(男女同数)	80(男女同数程度)	【一般枠募集】 報告書、適性検査	4.86	4.45	4.46	a
東京都	併設型	東京都立富士高等学校 東京都立富士高等学校附属中学校	120(男女同数)	80(男女同数程度)	【一般枠募集】 報告書、適性検査	4.94	5.44	5.03	a
東京都	併設型	東京都立大泉高等学校 東京都立大泉高等学校附属中学校	120(男女同数)	80(男女同数程度)	【一般枠募集】 報告書、適性検査	7.31	6.74	7.10	a
神奈川県	中等教育学校	神奈川県立平塚中等教育学校	160	-	適性検査及びグループ活動による検査	4.76	5.09	5.28	a
神奈川県	中等教育学校	神奈川県立相模原中等教育学校	160	-	適性検査及びグループ活動による検査	6.54	7.70	8.02	a
新潟県	併設型	新潟県立阿賀黎明中学校 新潟県立阿賀黎明高等学校	募集停止	40	H30募集停止のため実施していない	0.15	0.15	なし	a
新潟県	中等教育学校	新潟県立村上中等教育学校	80	-	作文、グループ活動、面接	1.27	1.68	1.11	a
新潟県	中等教育学校	新潟県立柏崎翔洋中等教育学校	80	-	作文、グループ活動、面接	0.93	0.86	0.83	a
新潟県	中等教育学校	新潟県立燕中等教育学校	80	-	作文、グループ活動、面接	1.00	1.38	1.10	a
新潟県	中等教育学校	新潟県立津南中等教育学校	80	-	作文、グループ活動、面接	0.78	0.90	0.58	a
新潟県	中等教育学校	新潟県立直江津中等教育学校	120	-	作文、グループ活動、面接	1.35	1.45	1.26	a
新潟県	中等教育学校	新潟県立佐渡中等教育学校	80	-	作文、グループ活動、面接	0.57	0.55	0.63	a

石川県	併設型	石川県立金沢錦丘中学校 石川県立金沢錦丘高等学校	120(男女比の規定はない)	320 (H30)	調査書、適性検査、 個人面接	2.18	1.64	2.09	a
福井県	併設型	福井県立高志中学校	90	160	適性検査、作文	3.51	3.74	3.79	a
長野県	併設型	長野県屋代高等学校附属中学校	80(男女同数)	160	適性検査、報告書、 集団面接	4.81	4.35	4.09	a
長野県	併設型	長野県諏訪清陵高等学校附属中学校	80(男女同数)	160	適性検査、報告書、 集団面接	3.23	3.28	2.58	a
静岡県	併設型	静岡県立浜松西高等学校・同 中等部	160	80	総合適性検査、作 文、面接、調査書	2.90	2.57	2.15	a
静岡県	併設型	静岡県立清水南高等学校・同 中等部	120	40	総合適性検査、作 文、面接、調査書	1.28	1.25	1.24	a
滋賀県	併設型	滋賀県立河瀬中学校 滋賀県立河瀬高等学校	80	240	作文、適性検査、集 団面接、個人調査報 告書	2.48	2.06	1.99	a
滋賀県	併設型	滋賀県立守山中学校 滋賀県立守山高等学校	80	280	作文、適性検査、集 団面接、個人調査報 告書	5.04	5.43	4.51	a
滋賀県	併設型	滋賀県立水口東中学校 滋賀県立水口東高等学校	80	240	作文、適性検査、集 団面接、個人調査報 告書	1.80	1.56	1.53	a
京都府	併設型	京都府立洛北高等学校附属 中学校 京都府立洛北高等学校	80 (H30選抜)	200 (H30選抜)	面接、適性をみる検 査、報告書	4.54	4.68	3.73	a
京都府	併設型	京都府立南陽高等学校附属 中学校 京都府立南陽高等学校	40 (H30選抜)	320 (H30選抜)	面接、適性をみる検 査、報告書	—	—	3.35	a
京都府	併設型	京都府立園部高等学校附属 中学校 京都府立園部高等学校	40 (H30選抜)	130 (H30選抜)	面接、適性をみる検 査、報告書	1.45	1.58	1.68	a
京都府	併設型	京都府立福知山高等学校附 属中学校 京都府立福知山高等学校	40 (H30選抜)	200 (H30選抜)	面接、適性をみる検 査、報告書	2.18	2.58	2.30	a
大阪府	併設型	大阪府立富田林中学校 大阪府立富田林高等学校	120	240	適性検査、作文	—	5.03	4.14	a
兵庫県	中等教育 学校	兵庫県立芦屋国際中等教育学校	80	—	志願理由書、作文、 面接等に基づき総 合的に選考	3.64	3.41	3.53	a
奈良県	併設型	奈良県立青翔中学校 奈良県立青翔高等学校	80	0	適性検査1、適性 検査2、面接、調査 書	1.63	1.29	1.35	a
和歌山県	併設型	和歌山県立橋本高等学校 和歌山県立古佐田丘中学校	40	160	適性検査Ⅰ・Ⅱ、作文 (600字程度)の検査及び 面接(一人5分程度の個 人面接)	2.03	2.28	2.13	a
和歌山県	併設型	和歌山県立向陽高等学校 和歌山県立向陽中学校	80	240	適性検査Ⅰ・Ⅱ、作文 (600字程度)の検査及び 面接(一人5分程度の個 人面接)	4.43	3.94	3.91	a
和歌山県	併設型	和歌山県立桐蔭高等学校 和歌山県立桐蔭中学校	80	200	適性検査Ⅰ・Ⅱ、作文 (600字程度)の検査及び 面接(一人5分程度の個 人面接)	3.98	3.91	3.15	a
和歌山県	併設型	和歌山県立日高高等学校 和歌山県立日高高等学校附 属中学校	40	200	適性検査Ⅰ・Ⅱ、作文 (600字程度)の検査及び 面接(一人5分程度の個 人面接)	1.25	1.63	1.30	a

和歌山県	併設型	和歌山県立田辺高等学校 和歌山県立田辺中学校	80	240	適性検査Ⅰ・Ⅱ、作文 (600字程度)の検査及び 面接(一人5分程度の個人 面接)	1.65	1.60	1.63	a
岡山県	併設型	岡山県立岡山操山中学校 岡山県立岡山操山高等学校	120	280	適性検査、面接、調 査書	3.7	3.6	3.1	a
岡山県	併設型	岡山県立倉敷天城中学校 岡山県立倉敷天城高等学校	120	240	同上	3.0	2.7	3.3	a
岡山県	併設型	岡山県立津山中学校 岡山県立津山高等学校	80	240	同上	2.7	2.7	2.6	a
岡山県	中等教育 学校	岡山県立岡山大安寺 中等教育学校	160	-	同上	4.0	3.2	3.7	a
広島県	併設型	広島県立広島中学校 広島県立広島高等学校	160	80	適性検査、志望理由 書、調査書	4.96	5.78	5.66	a
山口県	中等教育 学校	山口県立下関中等教育学校	105	-	調査書、面接(個人)、記 述式の課題1、記述式の 課題2による選考検査	1.40	1.50	1.68	a
山口県	併設型	山口県立高森みどり中学校 山口県立高森高等学校	50	105	調査書、面接(個人)、記 述式の課題1、記述式の 課題2による選考検査	1.72	1.72	1.18	a
徳島県	併設型	徳島県立城ノ内中学校 徳島県立城ノ内高等学校	140	200	適性検査、調査書、 集団面接	3.11	2.73	2.59	a
徳島県	併設型	徳島県立富岡東中学校 徳島県立富岡東高等学校	80	160	適性検査、調査書、 集団面接	2.33	2.15	2.16	a
徳島県	併設型	徳島県立川島中学校 徳島県立川島高等学校	60	140	適性検査、調査書、 個人面接	1.12	1.13	1.03	a
香川県	併設型	高松北中学校・高等学校	105		適性検査(作文・総 合)・面接・調査書				a
愛媛県	中等教育 学校	愛媛県立今治東中等教育学校	160	-	中等教育学校長は、入 学志願理由書、調査書 並びに作文、適性検査 及び面接の結果を資料 として、当該中等教育学 校の特色を踏まえ、入学 志願者の意欲や適性等 を総合的に判断して、入 学予定者を選考する。	0.79	0.92	0.66	a
愛媛県	中等教育 学校	愛媛県立松山西中等教育学校	160	-		2.08	1.85	1.99	a
愛媛県	中等教育 学校	愛媛県立宇和島南中等教育学校	160	-		1.14	1.17	0.77	a
高知県	併設型	高知県立安芸中学校 高知県立安芸高等学校	60(男女 同数程 度)	200	志願理由書、適性検 査、作文、面接	0.98	0.60	0.90	a
高知県	併設型	高知県立高知南中学校 高知県立高知南高等学校	60(男女 同数程 度)	240	志願理由書、適性検 査、作文、面接	1.58	1.50	2.32	a
高知県	併設型	高知県立高知国際中学校 高知県立高知国際高等学校	60(男女 同数程 度)	280 予定	志願理由書、適性検 査、作文、面接	※中学校は H30年、高校 はH33年開 校。		3.98	a
高知県	併設型	高知県立中村中学校 高知県立中村高等学校	70(男女 同数程 度)	200	志願理由書、適性検 査、作文、面接	1.41	1.24	1.03	a
福岡県	併設型	育徳館中学校 育徳館高等学校	120	200	面接、適性検査、作 文	2.08	1.79	1.85	a

福岡県	併設型	門司学園中学校 門司学園高等学校	120	160	面接、適性検査、作文	2.21	1.75	1.81	a
福岡県	併設型	宗像中学校 宗像高等学校	80	320	面接、適性検査、作文	5.59	4.63	4.55	a
福岡県	併設型	嘉穂高等学校附属中学校 嘉穂高等学校	80	320	面接、適性検査、作文	4.49	3.94	3.81	a
福岡県	中等教育学校	輝翔館中等教育学校	120	-	面接、適性検査、作文	1.23	1.33	1.07	a
佐賀県	併設型	佐賀県立香楠中学校 佐賀県立鳥栖高等学校	120	240	適性検査、面接の結果及び調査書を総合的に審査	2.53	1.98	2.48	a
佐賀県	併設型	佐賀県立致遠館中学校 佐賀県立致遠館高等学校	120	240	適性検査、面接の結果及び調査書を総合的に審査	3.26	3.01	2.78	a
佐賀県	併設型	佐賀県立唐津東中学校 佐賀県立唐津東高等学校	120	240	適性検査、面接の結果及び調査書を総合的に審査	3.04	3.18	2.84	a
佐賀県	併設型	佐賀県立武雄青陵中学校 佐賀県立武雄高等学校	120	240	適性検査、面接の結果及び調査書を総合的に審査	2.15	2.27	2.08	b 約1 km
長崎県	併設型	長崎県立長崎東中学校 長崎県立長崎東高等学校	120(男女同数程度)	280	適性検査、作文、集団面接、調査書	3.24	3.77	3.39	a
長崎県	併設型	長崎県立佐世保北中学校 長崎県立佐世保北高等学校	120(男女同数程度)	240	適性検査、作文、集団面接、調査書	2.66	3.08	2.55	a
長崎県	併設型	長崎県立諫早高等学校附属中学校 長崎県立諫早高等学校	120(男女同数程度)	280	適性検査、作文、集団面接、調査書	2.77	2.93	2.55	a
熊本県	併設型	熊本県立玉名高等学校附属中学校 熊本県立玉名高等学校	80	200	適性検査、面接、調査書	1.99	1.99	1.75	a
熊本県	併設型	熊本県立宇土中学校 熊本県立宇土高等学校	80	160	適性検査、面接、調査書	1.78	2.00	1.93	a
熊本県	併設型	熊本県立八代中学校 熊本県立八代高等学校	80	160	適性検査、面接、調査書	2.25	1.91	1.99	a
大分県	併設型	大分豊府中学校 大分豊府高等学校	120	280	適性検査、面接	2.9	2.6	2.4	a
宮崎県	中等教育学校	五ヶ瀬中等教育学校	40	-	作文、適性検査、集団面接、調査書	2.7	2.8	2.8	a
宮崎県	併設型	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 宮崎県立宮崎西高等学校	80	40	作文、適性検査、集団面接、調査書	3.6	3.5	3.8	a
宮崎県	併設型	宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校	40	40	作文、適性検査、集団面接、調査書	3.7	3.6	3.2	a
鹿児島県	併設型	鹿児島県立楠隼中学校 鹿児島県立楠隼高等学校	60	90	適性検査、面接、調査書	3.67	2.38	2.02	a
沖縄県	併設型	沖縄県立与勝緑が丘中学校 沖縄県立与勝高等学校	80(男女同数程度)	80	適性検査、調査書、面接	2.21	2.00	2.14	a

沖縄県	併設型	沖縄県立球陽中学校 沖縄県立球陽高等学校	40(男女同数程度)	200		適性検査、調査書、面接	9.03	9.63	7.78	a
沖縄県	併設型	沖縄県立開邦中学校 沖縄県立開邦高等学校	40(男女同数程度)	280		適性検査、調査書、面接	12.00	13.32	12.70	a
札幌市	中等教育学校	札幌市立札幌開成中等教育学校	160(男80女80)	-		調査書、適性検査、グループ活動	5.68	4.38	4.38	a
仙台市	中等教育学校	仙台市立仙台青陵中等教育学校	140	-		適正検査、作文、面接、調査書	2.30	2.75	2.70	a
さいたま市	併設型	さいたま市立浦和中学校・高等学校	80(男女同数)	240		適性検査(3種類)、面接(個人・集団)、調査書	5.59	6.05	6.16	a
千葉市	併設型	千葉市立稲毛高等学校附属中学校 千葉市立稲毛高等学校	80(男子40人、女子40人)	普通科200人、国際教養科40人		適性検査、面接、報告書、志願理由書	8.40	8.50	7.20	a
横浜市	併設型	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	男女各40	158(予定)		調査書、適性検査	-	8.56	7.08	a
横浜市	併設型	横浜市立南高等学校附属中学校 横浜市立南高等学校	160(男女おおよそ各80)	38		調査書、適性検査	7.99	6.41	5.34	a
川崎市	併設型	川崎市立川崎高等学校附属中学校 川崎市立川崎高等学校	120	38		適性検査(作文含む)、面接、調査書	4.61	4.36	4.46	a
新潟市	中等教育学校	新潟市立高志中等教育学校	120	-		作文、適性検査、面接等による選考検査	1.33	1.53	1.44	a
長野市	併設型	長野市立長野中学校 長野市立長野高等学校	70男女同数を基本とする。	160		適性検査、作文、報告書、集団面接		2.96	2.06	a
京都市	併設型	京都市立西京高等学校附属中学校 京都市立西京高等学校	120	160		適性検査、面接、報告書	4.63	4.61	4.53	a
大阪市	併設型	大阪市立咲くやこの花中学校 大阪市立咲くやこの花高等学校	80	160		適性検査、集団面接	5.36	5.58	4.96	a
岡山市	併設型	岡山市立岡山後楽館中学校 岡山市立岡山後楽館高等学校	80	160		調査書、課題作文、面接	1.64	1.51	1.66	a
広島市	中等教育学校	広島市立広島中等教育学校	120	-		適性検査、面接、志望理由書、調査書	4.27	4.33	4.04	a

※募集人員の欄で、「中等教育学校」は中学校の欄に記入。

※選抜方法及び志願倍率の欄で、「併設型」の場合は中学校について記入。

※校舎の敷地の欄について

a・・・中学校と高校の校舎が同じ敷地内にある

b・・・中学校の敷地と高校の敷地が分離している(距離は、両校の直線距離。)

※中等教育学校は、中学校を前期課程、高校を後期課程と読み換える。

問3 これまでに、中高一貫教育についての検証、評価を行っていますか。

- ア はい
- イ いいえ

問4 問3で「ア」と回答された場合、中高一貫教育についての検証、評価はどんな形で公表しましたか。

- ア 報告書など資料化して公表している
- イ 再編整備計画の中に記載するなどして公表している
- ウ その他

	問3		問4			問4 ウの場合
	ア	イ	ア	イ	ウ	
北海道		○				
青森県	○				○	公表はしていない
岩手県	○				○	「今後の高等学校教育の基本的方向」の中に記載している。
宮城県	○		○			
秋田県	○			○		
山形県	○				○	連携型中高一貫教育について、「山形県中高一貫校設置構想」(H21)の中でふれている。
福島県		○				
茨城県	○		○			
栃木県	○		○			
群馬県	○				○	「高校教育改革推進計画」有識者委員会(平成25年度)の中で検証を行った。
埼玉県	○		○			
千葉県	○		○			
東京都		○				
神奈川県		○				
新潟県	○				○	検証をはじめているが、公表していない。
石川県	○			○		
福井県		○				
長野県	○				○	最終的な検証・評価が行われていないため公表はしていない。
静岡県	○			○		
三重県		○				
滋賀県		○				
大阪府		○				
兵庫県	○				○	県立高等学校長期構想検討委員会報告の中に記載して公表している。
奈良県		○				
和歌山県	○				○	第9期きのくに教育審議会(平成23年3月)にて報告
岡山県	○			○		
広島県	○			○		
山口県	○		○			
徳島県	○		○			
香川県	○					
愛媛県	○				○	内部資料として、進路実績や部活動の実績などを取りまとめている。
高知県	○			○		
福岡県	○				○	会議等の時期を捉えて評価、検証しているが、報告書等としては公表していない。
佐賀県	○		○			

長崎県	○			○	
熊本県	○				○ 公表はしていない
大分県	○				○ 再編整備後のフォローアップ委員会で検討、評価、公表
宮崎県		○			
鹿児島県		○			
沖縄県		○			
札幌市	○		○		
仙台市	○		○		
さいたま市	○		○		
千葉市	○		○		
横浜市	○		○		
川崎市		○			
新潟市	○				○ 人事課、学校支援課が学校を訪問し、指導評価を行っているが公表はしていない。
長野市	○				○ 「長野市立長野高等学校中高一貫教育 基本計画」(H26)の中で触れている。
京都市	○		○		
大阪市		○			
岡山市	○				○ 中学校・高等学校の管理職と教育委員会で会議を開催し、検証、評価を行い、その内容を学校経営に反映させているが、会議の内容等について公表はしていない。
広島市	○				○ 広島市立高等学校教育の基本方針を示した「広島市ハイスクールビジョン(H28)」「ハイスクールビジョン推進プログラム(H29)」の中でふれている。

問5 今後、併設型中高一貫教育校または中等教育学校の設置予定がありますか。

ア 設置の計画(予定)がある

	設置予定年度	設置場所(市町村等)	形態	学校名	募集人員		選抜方法	備考
					中	高		
福島県	H31	広野町	併設型	ふたば未来学園中学校(仮称) ふたば未来学園高等学校	60	100	適性検査、作文、面接、実技審査、調査書	
広島県	H30	三次市	併設型	広島県立三次中学校 広島県立三次高等学校	80	120	検討中	平成30年2月県議会へ上程中
広島県	H30	大崎上島町	併設型	広島県立広島叡智学園 中学校・高等学校	40	—	1次検査～記述式検査・面接 2次検査～2泊3日の合宿(協働活動・面接・振返り文作成等)	高校からの入学生は、基本的に海外からの留学生のみを予定
徳島県	H32	徳島市	中等教育学校	徳島県立城ノ内中等教育学校	140		適性検査、調査書、集団面接	
さいたま市	H31	さいたま市	中等教育学校	さいたま市立大宮国際中等教育学校	160(男女同数程度)		適性検査(3種類)、集団活動、調査書(予定)	適性検査・集団活動には、本市独自の英語教育(グローバル・スタディ:GS)の内容を含む。
大阪市	H31	大阪市	併設型	大阪市立水都国際中学校 大阪市立水都国際高等学校	80	80	検討中	公設民営

※募集人員の欄について、「中等教育学校」は中学校の欄に記入。

※選抜方法の欄について、「併設型」の場合は中学校について記入。

イ 現段階で具体的な設置の計画(予定)はないが、設置を検討している、あるいは、設置の構想(方針)がある。

	内容
青森県	平成29年7月20日に決定した青森県立高等学校教育改革第1期実施計画において、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担い一定の規模を有する重点校を、青森高校、五所川原高校、弘前高校、三本木高校、田名部高校、田名部高校の6校としたところである。このうち、田名部高校に単位制を導入するとともに、その他の重点校に併設型中高一貫教育を第2期以降の実施計画において導入すること等について検討することとしている。
山形県	本県では平成21年6月に「山形県中高一貫教育校設置構想」を策定し、その中で、併設型中高一貫校を内陸地区と庄内地区にモデル校を設置するとしており、平成28年4月、内陸地区の東根市に東桜学館中学校・高等学校が開校した。庄内地区への設置について、現在検討中である。
千葉県	平成24年度から10年間の県立学校改革に関する基本的な考え方を示した「県立学校改革推進プラン」を平成24年3月に策定した。プランでは、併設型中高一貫教育校・中等教育学校について、生徒・保護者及び社会のニーズ、配置バランス、地域の実情などを踏まえ、2校程度設置することとしている。現在、プランに基づき、平成28年度、県立東葛飾高等学校に併設型中高一貫教育校を設置したところである。
長野県	平成26年に2校目のモデル校として設置した諏訪清陵高等学校附属中学校の第1期生は現在高校1年生であり、この第1期生の高等学校卒業に合わせて最終的な検証・評価を行うこととしている。
静岡県	併設型中高一貫教育校については、就学指定の中学校とともに生徒及び保護者の選択肢の一つとなるよう、実施校の状況、地域バランスや関係地域の意向等を踏まえ、設置を検討する。

三重県	<p>平成23年度「三重県中高一貫教育推進会議」(委員は、学識経験者・市町教育長代表・小中高各PTA代表・小中高各校長代表・教職員代表で構成)で検討し、「各地域における高校の活性化策や、保護者等のニーズをふまえて総合的に判断する中で、必要があれば検討する」とまとめられた。</p> <p>以降、先進地調査や市町教育委員会への聞き取り調査等を行い、庁内会議で検討している。</p>
山口県	<p>「第2期県立高校将来構想」から抜粋</p> <p>中高一貫教育は、従来の中学校・高等学校の制度に加えて、6年間の一貫教育も選択できるようにすることにより、中等教育の多様化・複線化を推進するものであり、全国的にも設置校数が年々増えてきています。</p> <p>こうした中、児童生徒や保護者・地域のニーズ等を考慮しながら、適正な定員配置や進学指導に重点を置いた中高一貫教育校の設置などを検討し、中高一貫教育の推進に努めます。</p>
長崎県	<p>本県では、平成21年3月に「第二期長崎県高等学校改革基本方針」(平成23年度～平成32年度)を策定し、その中で、以下のように併設型中高一貫教育校について記載している。</p> <p>今後の併設型中高一貫教育校の設置拡充に当たっては、地元中学校への影響が懸念されることから、既設の3高等学校における教育成果や課題を踏まえながら、次の設置要件と併せて慎重に検討する必要がある。</p> <p>ア 地域にできるだけ多くの児童が在籍している。</p> <p>イ 学校選択肢を拡大する観点から地域に複数の高等学校が設置されていること。</p> <p>ウ 広範囲から多くの生徒が通学できる交通の利便性がよい地域であること。</p>
川崎市	<p>設置の予定はないが、設置しないと決定したわけではない。</p>
福岡市	<p>具体的な計画や設置構想等の予定はないが、市民の関心を知るために「福岡市が市立の中高一貫教育校を設置することについてどう思うか。」という市政アンケート調査を実施した。</p>

ウ 設置予定はない

<p>北海道、岩手県、宮城県、秋田県、茨城県、、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、岐阜県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、札幌市、仙台市、千葉市、横浜市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、長野市、名古屋市、京都市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、熊本市</p>
--

問6 中高一貫教育校(連携型・併設型・中等教育学校)をこれまで廃止、または、今後の廃止の予定がありますか。

ア ある

イ ない

アと回答した都道府県市

北海道、青森県、埼玉県、新潟県、石川県、福井県、三重県、大阪府、山口県、徳島県、香川県、高知県、佐賀県、広島市

問7 問6で「ア」と回答された場合、その主な理由を、お答えできる範囲でお書きください。

	内容
北海道	過去に2校、連携型中高一貫教育を終了した。(H24長万部高校、H21上ノ国高校) 【主な理由】 中卒者数の減少などにより、1学年1学級の高校となったことから、教員数が減少し連携型中高一貫教育を継続していくことが難しくなるため、地元の市町村教育委員会と協議を行い終了することとした。
青森県	平成14年度から、むつ市立大湊中学校と青森県立大湊高等学校において連携型中高一貫教育を導入したところであるが、連携型選抜による大湊高等学校への入学者数が減少したことや、むつ市内において小中一貫教育を導入したこと等から、平成25年度末をもって連携型中高一貫教育を終了したものである。
埼玉県	連携型中高一貫校で中学校から高校への入学生の割合が減少している等の課題があったため。
新潟県	県立阿賀黎明中学校は、平成30年度の募集停止に伴って、平成32年3月に閉校する予定である。これにより、平成32年度には、阿賀黎明中学校と阿賀黎明高校の連携型による中高一貫校の状況は解消されるが、阿賀黎明高校については、平成32年度も募集を行う予定である。
石川県	当該高等学校が統廃合されたため。
福井県	連携型を実施している武生高校池田分校－池田中学校において、池田分校の募集を平成30年度より停止したため。
三重県	地域連携を基盤とした系統的なキャリア教育等について、地域の参画を強化し、地域の教育力をより活用できるよう、連携型中高一貫教育からコミュニティ・スクール(学校運営協議会設置校)へ移行した。
大阪府	府立高校の再編整備により、柏原市立中学校(7校)と連携型中高一貫教育を実施している府立柏原東高校を、平成31年度から募集停止とする予定である。
山口県	連携型の中高一貫教育校であった高等学校を、他の高等学校との再編統合により廃止した。
徳島県	学力分野のリーディングハイスクールである城ノ内中学校・高等学校の更なる教育の充実を図るため、現在の併設型から中等教育学校へ形態を移行する。
高知県	再編振興計画による統合に伴い、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校を統合し、高知国際中学校・高等学校を設置することとした。両校とも学年進行型の統合とし、中学校においては、H33年度に高知南中学校を募集停止とするが、H30～34年度の5年間は、高知南と高知国際の2つの中学校が並存する。
佐賀県	【連携型】 (平成14年4月開始) 太良町立多良中学校及び太良町立大浦中学校 佐賀県立太良高等学校 ⇒ 平成23年度の太良高校改編(多様な学びができる全日制普通高校)により、 連携型中高一貫教育は平成24年度(平成22年度入学生の卒業年度)で終了。
広島市	平成26年度に広島中等教育学校を開校し、従前の併設型中高一貫教育校から段階的に移行しているため、平成27年度末に広島市立安佐北中学校を閉校するとともに、平成30年度末に広島市立安佐北高等学校を閉校する予定である。

<問合せ先>

山形県教育庁高校教育課高校改革推進室

〒990-8570 山形市松波二丁目 8-1

TEL 023 (630) 2493 FAX 023 (630) 2774

E-Mail ykokokaikaku@pref.yamagata.jp